

官報

號外 昭和十五年三月八日

○第七十五回帝國議會衆議院議事速記第二十一號

昭和十五年三月七日(木曜日)

午後二時十二分開議

議事日程 第二十號

昭和十五年三月七日

午後一時開議

第一 議員齋藤隆夫君懲罰事犯ノ件

第二 石炭配給統制法案(政府提出) 第一讀會

第三 家畜傳染病豫防法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

第四 軍用電氣通信法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

第五 牧野法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

第六 輸出毛織物取締法案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

第七 要塞地帶法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

第八 獸醫師法等ノ臨時特例ニ關スル法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

第九 宇品港域軍事取締法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

第十 輸出資金及輸出品製造資金融通損失補償法案(政府提出) 第一讀會

第十一 東北興業株式會社法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

官報號外 昭和十五年三月八日 衆議院議事速記第二十一號 議長ノ報告

第十二 東北振興電力株式會社法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

議長(小山松壽君) 諸般ノ報告ヲ致サセマス

(書記官朗讀) 一政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

昭和十三年度第一豫備金支出ノ件

昭和十三年度特別會計第一豫備金支出ノ件

昭和十三年度特別會計豫備費支出ノ件

昭和十四年度第二豫備金支出ノ件

昭和十四年度豫備金外豫算外支出ノ件

昭和十四年度特別會計第二豫備金支出ノ件

昭和十四年度特別會計豫備金外豫算超過及豫算外支出ノ件

(以上三月七日提出)

(左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ掲載ス)

一議員ノ異動左ノ如シ

一去四日靜岡縣第二區選出議員高木泰太郎君死去セラレタリ

一政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

石炭配給統制法案 (以上三月六日提出)

一昨六日貴族院ヨリ受領シタル政府提出案左ノ如シ

要塞地帶法中改正法律案

獸醫師法等ノ臨時特例ニ關スル法律案

宇品港域軍事取締法中改正法律案

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

三陸沿岸鐵道ノ速成並其ノ交通運營ニ關スル建議案

提出者 志賀和多利君 泉 國三郎君

纖維配給機構改革ニ關スル建議案

提出者 安藤 孝三君 松田竹千代君

芦田 均君 由谷 義治君

横川 重次君 木村 淺七君

井阪 豐光君 岡本實太郎君

豐田 豐吉君 三木 武夫君

(以上三月五日提出)

助産師法案

提出者 紅露 昭君 坂東幸太郎君

中野 寅吉君 高岡 大輔君

中部千島開放ニ關スル建議案

提出者 田代 正治君 小笠原八十美君

木下成太郎君

官立商船學校設立ニ關スル建議案

木材檢查改正ニ關スル建議案

提出者 林 平馬君 中川 重春君

(以上三月六日提出)

一去五日議長ニ於テ辭任ヲ許可シタル常任委員左ノ如シ

第七部選出豫算委員

第一部選出懲罰委員

第一部選出懲罰委員

第二部選出懲罰委員

第二部選出懲罰委員

第三部選出懲罰委員

第五部選出懲罰委員

第六部選出懲罰委員

第七部選出懲罰委員

第八部選出懲罰委員

一去五日常任委員補選選舉ノ結果左ノ如シ

第四部選出豫算委員

笠井 重治君 (坂本宗太郎君補闕)

木暮武太夫君 山川賴三郎君

森 肇君 岸田 正記君

沖島 鎌三君 窪井 義道君

肥田 琢司君 芦田 均君

西岡竹次郎君 佐保 畢雄君

庄司 一郎君 野口 喜一君

提出者

村松 久義君

池田 清秋君

中山 福藏君

勝田 永吉君

高橋 義次君

平川松太郎君

作田高太郎君

小林房之助君

八並 武治君

山田 順策君

日本肥料株式會社法案(政府提出)委員

眞鍋 儀十君 成島 勇君

松本 忠雄君 小野 寅吉君

田中 邦治君 山田 六郎君

明治二十五年三月三十一日

一昨五日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ
鑛業法中改正法律案(政府提出)外一件委員

辭任村松 久義君 補關高橋壽太郎君
船員保險特別會計法案(政府提出)外四件委員

辭任村上紋四郎君 補關栗山 博君
辭任前川 正一君 補關中村 高一君
辭任岡崎 憲君 補關井上 良次君

市町村義務教育費國庫負擔法改正法律案
(政府提出)外一件委員

辭任古島 義英君 補關多田 滿長君
金華山軌道株式會社及朝倉軌道株式會社
所屬軌道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公

債發行ニ關スル法律案(政府提出)委員
辭任木原 七郎君 補關長野 綱良君
辭任羽田武嗣郎君 補關紅露 昭君

輸出資金及輸出品製造資金融通損失補償
法案(政府提出)委員

辭任岩瀨 亮君 補關松村 光三君
一昨六日米內閣總理大臣ヨリ左ノ通發令
アリタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

內務書記官 山内 逸造
第七十五回帝國議會內務省所管事務政府
委員被仰付

燃料局事務官 柳原 博光
第七十五回帝國議會商工省所管事務政府
委員被仰付

一昨六日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ
日本肥料株式會社法案(政府提出)委員

委員長 能谷 直太君
理事 眞鍋 儀十君 成島 勇君
原 惣兵衛君 河野 一郎君

一昨六日衆議院規則第十五條但書ニ依リ議
長ニ於テ議席ヲ左ノ通變更セリ
二八 田尻 生五君
三〇 朴 春 翠君
四四〇 北海第二
區選出議員

一昨六日常任委員理事補關選舉ノ結果左ノ
如シ
懲罰委員 理事 平野 光雄君(理事池田清秋君
去五日委員辭任ニ付其ノ補

關) 理事 中村三之丞君(理事中山福藏君
去五日委員辭任ニ付其ノ補

關) 一昨六日常任委員補關選舉ノ結果左ノ如シ
第七部選出 豫算委員 坂下仙一郎君(村松久義君
補關)

第一部選出 懲罰委員 平野光雄君(池田清秋君補
關)

第一部選出 懲罰委員 村松久義君(中山福藏君補
關)

第二部選出 懲罰委員 中村三之丞君(勝田永吉君
補關)

第二部選出 懲罰委員 眞鍋儀十君(高橋義次君補
關)

第三部選出 懲罰委員 西田郁平君(平川松太郎君
補關)

第五部選出 懲罰委員 深澤吉平君(作田高太郎君
補關)

第六部選出 懲罰委員 古田喜三太君(小林房之助
君補關)

第七部選出 懲罰委員 坂下仙一郎君(八並武治君
補關)

第八部選出 懲罰委員 伊藤五郎君(山田順策君補
關)

一昨六日特別委員理事補關選舉ノ結果左ノ
如シ
金華山軌道株式會社及朝倉軌道株式會社
所屬軌道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公

債發行ニ關スル法律案(政府提出)委員
理事 紅露 昭君(委員小平重吉君
昨六日理事辭任ニ付其ノ補

關) 一昨六日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ
鑛業法中改正法律案(政府提出)外一件委
員

辭任岩瀨 亮君 補關武田德三郎君
辭任高橋壽太郎君 補關村松 久義君

○議長(小山松壽君) 是ヨリ會議ヲ開キマ
ス

○服部崎市君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ
提出致シマス、即チ此ノ際日程第十ヲ繰上
ゲ上程シ、其ノ審議ヲ進メラレシコトヲ望
ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異
議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ日程ノ順序ハ變更セラレマシタ

日程第十、輸出資金及輸出品製造資金融通
損失補償法案、第一讀會ノ續ヲ開キマス、
委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長井上知
治君

第十 輸出資金及輸出品製造資金融通
損失補償法案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書
一輸出資金及輸出品製造資金融通損失補
償法案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致
候此段及報告候也

昭和十五年三月五日 委員長 井上 知治
衆議院議長 小山松壽殿
〔井上知治君登壇〕

○井上知治君 只今議題トナリマシタル輸
出資金及輸出品製造資金融通損失補償法案
ニ對シマスル委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報
告申上ゲマス、先ヅ順序ト致シマシテ、本
法律案ノ内容ヲ簡單ニ御説明致シタイと思
ヒマス

本法律案ハ、我國現下ノ情勢ニ鑑ミ、輸
出貿易ノ積極的振興策ノ一ツトシマシテ、
輸出業者又ハ其ノ下請注文ノ引受ヲ爲シタ
ル製造業者ニ對シ、注文品ノ調達又ハ其ノ

製造ニ要スル資金ヲ銀行ガ前貸ヲ爲シ、之
ニ依ツテ損失ヲ受ケタル場合ニ、政府ハ其
ノ八割乃至七割ノ限度トシマシテ、銀行ニ
補償スル制度デアリマス、詰リ一言ニシテ
申上ゲマスレバ、輸出前ノ金融ノ緩和デゴ
ザイマス、而シテ政府ハ既ニ本制度ヲ實施
シテ居ルデアリマスガ、此ノ際之ヲ法律
ノ根據ノ下ニ於テ、制度ノ恆久化ヲ圖リ、
從來ノ輸出補償制度ト互ニ相呼應牽聯セシ
メ、以テ貿易金融制度ノ整備ヲ期シ、之ニ
依ツテ最近ノ國際通商情勢ニ對處シ、本邦
輸出貿易上ノ萬全ヲ期セントスル法案デア
ルノデゴザイマス

本法律案ニ對シマシテハ、委員會ハ、二
月ノ二十八日カラ三月五日マデ、五回ニ互
リマシテ會議ヲ開キマシタ、其ノ間多數ノ
委員諸君ヨリ、最モ適切ナル御質疑ガアツ
タノデアリマスルガ、之ニ對シマシテ政府
側カラハ、商工大臣並ニ各政府委員ヨリ、
ソレノ懇切ナル御答辯ガアリマシタ、今
其ノ質問ノ主ナルモノヲ申上ゲマス、今
所謂中小ノ商工業者ニ對スル本制度ノ運用
ニ關スル問題、其ノ他貿易行政機構強化ノ
問題、生絲ノ輸出振興ニ關スル問題、南洋
方面ニ於ケル華僑對策ノ問題、貿易金融以

外ノ輸出振興ニ關スル施設資材ノ配給問題、輸送關係ノ問題、物價問題、其他關係事項ニ付キマシテ、慎重ニ戰時體制下ニ適切且ツ有益ナル質疑應答ヲ重ネラレタノデアリマスルガ、各委員カラハ本法案ノ運用ニ付テハ、機宜ヲ失セザルヤウ、敏速ナル取扱ヲ爲スベシトノ要望ガアツタノデゴザイマス、斯クテ委員ノ質疑ヲ終リマシテ、討論ヲ省キマシテ、採決ノ結果、全會一致可決致サレマシタ、右簡單ニ御報告申上ゲマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 本案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 異議ナシト認メマス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○服部崎市君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 異議ナシト認メマス、仍テ直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

輸出資金及輸出品製造資金融通損失補償法案 第二讀會(確定議)

○議長(小山松壽君) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通り可決致シマシタ(拍手)

○服部崎市君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此ノ際日程第十一及第十二ノ兩案ヲ繰上ゲ一括上程シ、其ノ審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ノ順序ハ變更セラレマシタ
日程第十一、東北興業株式會社法中改正法律案、日程第十二、東北振興電力株式會社法中改正法律案、右兩案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長野村嘉六君

第十一 東北振興株式會社法中改正法律案(政府提出)

第十二 東北振興電力株式會社法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一 東北興業株式會社法中改正法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十五年三月六日

委員長 野村 嘉六

衆議院議長 小山松壽殿

希望條項

一 政府ハ東北興業株式會社東北振興電力兩株式會社ノ從來ノ經營方針ガ消極且官僚的ナルニ鑑ミ是ガ是正ニ就キ適當ナル處置ヲ講ズベシ
二 政府ハ東北地方ガ農業ヲ中樞トスル特殊性アルニ鑑ミ東北興業株式會社ヲシテ右特殊性ニ適應スル事業ノ實現ヲ期セシムルヤウ適當ナル處置ヲ講ズベシ

報告書

一 東北振興電力株式會社法中改正法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十五年三月六日

委員長 野村 嘉六

衆議院議長 小山松壽殿

〔野村嘉六君登壇〕

○野村嘉六君 只今議題トナリマシタ東北興業株式會社法ニ東北振興電力株式會社法中改正法律案ノ兩案ニ付キマシテ、委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報告致シマス
兩會社ノ目的ハ、東北地方ハ由來天恵ニ乏シク、是ガ爲メ産業經濟ノ發達遲レ、窮乏沈淪ノ實情ニアルヲ以テ、是ガ回復發達ヲ圖ル爲、昭和十一年十月兩會社ガ創立サレタノデアリマス

第一、東北興業株式會社ハ創立以來、東北六縣ノ農業工業既設會社三十一ニ對シ投資協力シ、又會社直營トシテ化學工業、一般工業、鑛山業、農林水產業等ヲ營ミ、著進ミツツアルモ、今ヤ日支事變關係上生産擴充ヲ要スル爲、更ニ擴張スル必要ガアリマシテ、昭和十九年マデ一億一千四百萬圓ノ資金ヲ以テ、國策會社ト使命ヲ完フスル考デアルノデアリマス、併シ國策會社ハ利益ヲ舉グルコトノミニ專念スルコトガ出來ナイノデ、各種事業中ニハ早急ニ利益ヲ舉グルコト困難ナルモノガアルト共ニ、豫定ノ配當ハ必ズ維持セバナラヌ立場上、從來ノ補給金五百五十萬圓ニ更ニ三百萬圓ヲ增加スル爲、此ノ改正案ヲ提出シタト云フノデアリマス

フノデアリマス、是ガ爲發電動力ハ現在約九萬「キロ」デアリマスガ、此ノ目的ガ達成ヲ致シマスレバ、約二十二萬「キロ」電力ガ生ズルトノコトデアリマス
本委員會ヲ開クコト十一回、何レモ熱心ニ重要ナル質問應答ガアリマシタ、其ノ中五六ノ質問並ニ答辯ノ要旨ヲ御紹介致シマス

一、東北文化ノ遅レタノハ天候其ノ他色々ノ原因ガアルモ、一ハ此ノ遅レタル文化ニ對シ、之ヲ回復スル必要ナル行政機構ノ設ケナキ爲デハナイカ、現ニ北海道廳ト云フ特別ノ行政機關ガアツテ、文化向上ノ能力ヲ舉ゲツツアル、仍テ政府ハ東北ニ東北廳設置ノ意思ナキヤトノ質問デアリマシタ、之ニ對シ政府ハ慎重ニ考慮シマス答ヘマシタ、政府デハ最モ東北文化向上ノ爲必要ナノハ、東北ノ經濟發達ニアルトノ意見ヲ附加ヘラレタノデアリマス

二、東北ハ天候ニ恵マレザル上、冷害ガ周期的ニ來ル結果、他縣ヨリ早く植付ヲ爲シ、肥料モ早く施サネバ、秋ノ收穫ニ大ナル影響ヲ來スノデアルカラ、今マデノ如ク其ノ年ノ六七月頃ノ配給デハ、到底間に合ハヌ故、二月中旬ニ大體肥料ノ配給ヲ終ル方法ヲ講ゼラレル意思ガアルカドウカトノ質問ニ對シ、政府ハ御尤モノコト故、御希望ニ副フヤウ盡力シマスとノ答辯デアリマシタ

三、東北六縣ハ官有林ハ民有林ニ比シ割合多ク、其ノ率ハ民有林五割五分デ、官有林四割五分、他府縣デハ民有林七割五分デ、官有林二割五分ノ割合ニナツテ居リマス、處ニ依リマシテハ人家ノ軒下マデ官有林デアル、斯ウ云フ有様デアリマスカラ、之ヲ開放シテ地方民ニ開墾使用セシメテ、地方民ニ利益便宜ヲ與フル意思ガアルカドウカトノ質問ニ對シ、政府ハ從來トモ官有林開放ノ考ノ下ニ調査シ、差支ナキ場所ハ、

ソレハ、拂下開墾等ヲ爲サシメテ居リマスガ、將來一層便宜ヲ圖ルトノ答辯デアリマシタ（拍手）

四、昨年ハ木炭不足ノ爲、冬季ニ入り都市ハ勿論地方ニ至ルマデ甚シキ缺乏ヲ來シ、木炭飢饉ノ憾ミガアツタノデアリマス、且ツ勞力不足ヲ補フ爲、學生マデ勤勞シ勤務セシメタ結果、不慣レノ致ス所、遂ニ疾病或ハ傷害患者ヲ生ゼシメタル事實ニ顧ミマシテ、本年ハ如何ニシテ此ノ不安ヲ除キ不足ヲ補フカト云フ質問ニ對シテ、政府ハ本年ハ學生ヲシテ勞力不足ヲ補ハシメル考ハ毛頭持テマセヌ、勿論製炭製造高モ全國ヲ通ジテ、昨年ノ六億五千萬貫ニ對シ、本年ハ約二億萬貫ヲ増産シ、東北六縣ニ對シテモ、昨年ノ一億五千萬貫ヨリ増産ヲ得ル見込デアリマス、且又世間ニ傳ツテ居ル木炭ノ闇取引問題ハ、司法官憲ニ於テ現在取調中デアルトノ答辯デアリマシタ

五、東北振興ノ爲、國策會社トシテ東北興業、東北電力兩株式會社創立セラレ、總裁トシテ初代吉野信次、二代八田嘉明、其ノ就任ニ當リマシテ、何レモ東北振興ノ爲東北ノ野ニ骨ヲ埋ムルト云フ挨拶ガアツタノデアリマスガ、醇朴ナル地方民ガ之ヲ信賴シタルニモ拘ラズ、席溫マル暇モナク、何レモ中央ニ榮轉シ、東北人ヲシテ失望セシメタルコト多大ナルノミナラズ、斯ル總裁頻繁ノ更迭デハ、東北振興ノ目的達成モ失敗ニ終リハセヌカト云フ質問ト同時ニ、政府ハ將來總裁ノ地位ニ對シ、如何ナル考ヲ持ツカトノ質問デアツタノデアリマス（拍手）政府ハ之ニ對シ御意見御尤モデ、全然同感デアルト、殊ニ兒玉內務大臣ハ言明致シタルデアリマス、將來ハ斷ジテ左様ナコトハ致サセマセストノ答辯デアリマシタ、又前々總裁、前總裁ノ退職慰勞金額ニ付テハ、嚴重ナル監督ヲ行フ故、申上ガ兼ネルトノ答辯デアリマシタ

六、東北地方ノ特殊事情ニ鑑ミ、東北地方現在ノ電氣會社合併統制ノ際ニハ、全國畫一的規制案ヲ強行セザルヤウアリタシトノ質問ニ對シ、政府ハ考慮ヲ爲ストノ答辯デアリマシタ、斯クシテ質問ヲ終了シ、討論ヲ致シマシテ、左記二箇條ノ希望條件ヲ附シマシタ

一、政府ハ東北興業並東北振興電力兩株式會社ノ從來ノ經營方針ガ消極且ツ官僚的ナルニ鑑ミ、是ガ是正ニ付キ適當ナル處置ヲ講ズベシ

一、政府ハ東北地方ガ農業ヲ中樞トスル特殊性アルニ鑑ミ、東北興業株式會社ヲシテ右特殊性ニ適應スル事業ヲ實現ヲ期セシムルヤウ適當ナル處置ヲ講ズベシ

仍テ二案一括採決ニ入り、全會一致可決サレマシタ、此ノ段御報告ヲ致シマス（拍手）

○議長（小山松壽君） 兩案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長（小山松壽君） 御異議ナシト認メマス、仍テ兩案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○服部崎市君 直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス

○議長（小山松壽君） 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長（小山松壽君） 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

東北興業株式會社法中改正法律案 第二讀會（確定議）

東北振興電力株式會社法中改正法律案 第二讀會（確定議）

○議長（小山松壽君） 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、兩案トモ委員

長報告通り可決確定致シマシタ（拍手）

○服部崎市君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此ノ際日程第三乃至第九ヲ繰上ゲ上程シ、逐次其ノ審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○議長（小山松壽君） 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長（小山松壽君） 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ノ順序ハ變更セラレマシタ、日程第三、家畜傳染病豫防法中改正法律案、第一讀會ヲ開キマス——島田農林大臣

第三 家畜傳染病豫防法中改正法律案（政府提出、貴族院送付） 第一讀會

家畜傳染病豫防法中改正法律案 第一條第一項ヲ左ノ如ク改ム

本法ニ於テ家畜ト稱スルハ牛、馬、綿羊、山羊、豚、犬、鶏及鶩ヲ謂ヒ傳染病ト稱スルハ牛疫、牛肺疫、口蹄疫、氣腫疽、牛ノ傳染性流産、ダニ熱、炭疽、鼻疽、假性皮疽、加奈陀馬痘、馬、細羊、山羊ノ疥癬、羊痘、豚コレラ、豚疫、豚丹毒、狂犬病、家禽コレラ、家禽ベスト及雛白痢ヲ謂フ

第五條第一項第一號ヲ左ク如ク改ム

一口蹄疫、氣腫疽、炭疽、鼻疽、假性皮疽、加奈陀馬痘、細羊、山羊ノ疥癬、羊痘、豚コレラ、豚疫、豚丹毒、家禽コレラ、家禽ベスト又ハ雛白痢ニ羅リタル家畜

第八條第二項第一號中「又ハ馬、細羊、山羊ノ疥癬」ヲ「又ハ馬、細羊、山羊ノ疥癬又ハ雛白痢」ニ、同項第三號中「又ハ加奈陀馬痘」ヲ「加奈陀馬痘、豚コレラ、豚疫又ハ豚丹毒」ニ改メ同項中第四號ヲ第五號トシ第五號ヲ第六號トシ第三號ノ次ニ左ノ一號

ヲ加フ

四 牛ノ傳染性流産、ダニ熱若ハ馬、細羊、山羊ノ疥癬ニ羅リ若ハ羅リタル疑アル家畜ノ屍體ノ皮又ハ豚コレラ、豚疫若ハ豚丹毒ニ羅リ若ハ羅リタル疑アル家畜ノ屍體ノ皮ニシテ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ消毒シタルモノ

第九條及第十一條中「家禽コレラ」ノ下ニ「家禽ベスト及雛白痢」ヲ加フ

第二十四條第一項中第四號ヲ第五號トシ第三號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

四 屠場ニ於テ屠殺シタル後牛疫、牛肺疫、氣腫疽、炭疽又ハ鼻疽ニ羅リ居リタルコト判明シタル爲屍體ヲ燒却若ハ埋却シタル家畜及豚コレラ又ハ豚疫ニ羅リ居リタルコト判明シタル爲屍體ヲ燒却若ハ埋却シ、屍體ヲ化製シ又ハ屍體ノ皮ヲ消毒シタル家畜

畜 同條第二項中「第二號乃至第四號」ヲ「第二號、第三號及第五號」ニ、同條第三項中「第五號」ヲ「第六號」ニ改ム

第二十五條中「前條」ヲ「第二十四條」ニ改ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（國務大臣島田俊雄君登壇）

○國務大臣（島田俊雄君） 只今議題トナリマシタ家畜傳染病豫防法中改正法律案ニ付テ、提案理由ヲ御説明申上ゲマス、改正ノ要點ハ近時、ダニ熱、雛白痢等ノ家畜傳染性病ノ發生情況、竝ニ豫防方法ノ研究成績ニ鑑ミマシテ、是等ノ傳染性病ヲ新ニ法定傳染病ノ中ニ加ヘ、以テ是ガ豫防制遏ニ一層ノ徹底ヲ期シマスルト同時ニ、更ニ資源不足ノ現狀ニ對處致シマシテ、從來法律ノ規定ニ依リ、燒却、埋却致シテ居リマシタル豚ノ屍體及ビ牛馬羊豚ノ屍體ノ皮ヲ化製

又ハ消毒スルコトニ依リ是ガ利用ヲ圖リ、又屠場ニ於テ屠殺後、家畜ガ傳染病ニ罹レルモノナルコトヲ發見致シマシタ場合ニ、新ニ手當金ヲ交付スルノ途ヲ開キ、所有者ノ負擔ノ輕減ヲ圖ルト共ニ、豫防上ノ圓滑ヲ期スル等、現行ノ家畜傳染病豫防法中改正ヲ爲ス必要アリト認メマシテ、是ガ改正ヲ行ハントスルモノデアリマス、本改正ハ現下ノ時局ニ對應シ、極メテ適切ナルモノト信ズル次第デアリマシテ、過般中央衛生會ニ諮詢ヲ致シ、其ノ答申ニ基キ立案致シタモノデアリマス、何卒御審議ノ上速ニ御協賛アラシコトヲ希望致シマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○服部崎市君 本案ハ政府提出、昭和十二年法律第九十號中改正法律案委員ニ併セ付託セラレシコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセスカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

日程第四、軍用電氣通信法中改正法律案、第一讀會ヲ開キマス——畑陸軍大臣

第四 軍用電氣通信法中改正法律案

(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

軍用電氣通信法中改正法律案

第七條ノ二 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ軍用電氣通信ノ通信ニ及ボス障礙ヲ防止スル爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ軍用電氣通信ノ施設場所ノ周圍ニ千メートルノ距離以內ニ於テ特別地域ヲ指定スルコトヲ得

第七條ノ三 特別地域內ニ於テ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ指定スル高周波電流ヲ發生スル設備ヲ施設セントスル者ハ陸

軍大臣又ハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依リ許可ヲ受クベシ

前項ノ許可ニハ條件ヲ附スルコトヲ得

前項ノ條件ハ軍事上必要アルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得

第七條ノ四 前條ノ規定ニ依リ制限ノ外陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ軍事上特に必要アルトキハ命令ヲ以テ特別地域內ニ於テ高周波電流ヲ發生スル機器ノ使用ヲ制限スルコトヲ得

第七條ノ五 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ第七條ノ三第一項ノ規定又ハ同項ノ許可ニ附シタル條件ニ違反スル設備ニ關シ其ノ施設者ニ對シ設備ノ除却其ノ他必要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得同項ノ許可ノ效力消滅シタル設備ニ關シ亦同ジ

第七條ノ六 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ第七條ノ三第一項ノ規定若ハ同項ノ許可ニ附シタル條件ニ違反スル設備又ハ第七條ノ四ノ規定ニ依リ命令ニ違反シテ使用スル機器ニ關シ軍事官憲ヲシテ障礙防止ノ爲必要ナル措置ヲ爲サシムルコトヲ得

第七條ノ七 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ特別地域ノ指定若ハ第七條ノ三第一項ノ指定ノ場合ニ於テ從來存シタル設備ニシテ其ノ後新ニ施設セラレタリトセバ同項ノ規定ニ依リ其ノ施設ノ許可ヲ受クベカリシモノ又ハ特別地域外ニ在ル同項ノ指定ニ該設備ニ關シ其ノ施設者ニ對シ當該設備ノ使用ノ制限又ハ當該設備ノ除却若ハ變更、障礙防止ノ施設其ノ他障礙防止ノ爲必要ナル措置ヲ命ジ又緊急ノ必要アルトキハ軍事官憲ヲシテ障礙防止ノ爲必要ナル措置ヲ爲サシムルコトヲ得

第七條ノ八 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ軍用電氣通信ノ通信ニ障礙ヲ及ボス設備ノ施設若ハ機器ノ使用ヲ爲ス者アリト

認ムルトキ又ハ第七條ノ四、第七條ノ五若ハ前條ノ規定ニ依リ命令若ハ處分ニ係ル事項ニ關シ必要アルトキハ當該設備ノ施設者又ハ當該機器ノ使用者ニ對シ報告ヲ命ジ又軍事官憲ヲシテ必要ナル場所ニ立入り検査セシムルコトヲ得

軍事官憲ハ前項ノ検査ノ場合ニ於テ必要アルトキハ關係者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ検査ニ付協力ヲ爲サシムルコトヲ得

第八條 左ニ掲グルモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府之ヲ補償ス

一 第四條第二項ノ規定ニ依リ添架ノ爲電氣導體ノ支持物ニ生ジタル損害

二 第五條第一項ノ規定ニ依リ立入又ハ測量標設置ノ爲生ジタル損害

三 第六條第一項ノ規定ニ依リ線路建設ノ爲土地又ハ建造物ニ生ジタル損害

四 第七條ノ規定ニ依リ伐除シタル植物ノ價額又ハ同條ノ規定ニ依リ植物ノ移植ノ費用

五 第七條ノ三ノ規定ノ適用ヲ受クルニ至リタルガ爲既ニ著シタル設備ヲ廢止シ又ハ變更スルノ已ムナキニ至リタルニ因リ生ジタル損害

六 第七條ノ七ノ規定ニ依リ著シク使用ヲ制限セラレ若ハ措置ヲ命ゼラレ又ハ軍事官憲ガ措置ヲ爲シタル爲生ジタル損害

前項ノ規定ニ依リ補償金額ニ付不服アル者ハ其ノ補償金額ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月以內ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 軍用電氣通信ノ線路ノ建設、保守、

測量又ハ巡視ヲ妨害シタル者

二 第七條ノ三第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケズ若ハ同項ノ許可ニ附シタル條件ニ違反シテ設備ヲ設置シ若ハ使用シタル者、同項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケズ若ハ同項ノ許可ニ附シタル條件ニ違反シテ設置シタル設備ヲ使用シタル者又ハ同項ノ許可ノ效力消滅シタル後當該設備ヲ使用シタル者

三 第七條ノ五又ハ第七條ノ七ノ規定ニ依リ命令ニ違反シタル者

第十五條ノ二 第七條ノ四ノ規定ニ依リ制限ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條ノ三 第七條ノ六若ハ第七條ノ七ノ規定ニ依リ軍事官憲ノ處分又ハ第七條ノ八第一項ノ規定ニ依リ検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シ、同條第二項ノ規定ニ依リ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ同項ノ規定ニ依リ協力ヲ爲サザル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條ノ八第一項ノ規定ニ依リ報告ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタル者亦前項ニ同ジ

第十八條中「第十三條乃至第十五條」ヲ「第十三條、第十四條、第十五條第一號」ニ改ム

第十九條ヲ第二十二條トス

第十九條 法人又ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第十五條第二號若ハ第三號又ハ第十五條ノ三第二項ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人ハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第二十條 第十五條第二號及第三號並ニ第十五條ノ三第二項ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ

法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十一條 前二條ノ場合ニ於テハ懲役ノ刑ニ處スルコトヲ得ズ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔國務大臣畑俊六君登壇〕

○國務大臣(畑俊六君) 只今上程セラレマシタ軍用電氣通信法中改正法律案ノ提出理由ニ付テ説明致シマス、軍用電氣通信ハ、軍隊統率ノ神經系統トモ見ラルベキモノデアリマシテ、其ノ重要性ニ付キマシテハ、茲ニ改メテ申上グルマデモナイコト存ジマス、然ルニ近年工業ノ發達、都市ノ膨脹ニ伴ヒマシテ、電氣ノ設備又ハ機器使用ノ範圍ガ、地域ノモ數量的ニモ急激ニ増大シテ參リマシテ、是等ヨリ發散スル高周波ノ作用ニ依リ、重要ナル軍用電氣通信ノ實施ガ障礙ヲ被ル虞ガ、極メテ大キク相成ツテ參ツタノデアリマス、是ニ於キマシテ軍用電氣通信ノ重要性ニ鑑ミ、之ニ及ボス電氣ノ障礙ヲ確實ニ防止シテ、其ノ機能ヲ確保スル爲、軍用電氣通信ノ施設場所ノ周圍ニ千米ノ距離以內ニ於テ、特別地域ヲ指定シ、此ノ地域ニ於テ高周波電流ヲ發生スル設備ノ設置、或ハ高周波電流ヲ發生スル機器ノ使用ヲ制限スル等ノ措置ヲ講ズル必要ガアルノデアリマス、本制限及ビ之ニ伴フ必要措置ニ依リ、一般ニ對シ多少ノ損害ヲ與ヘルコトニナリマセウガ、軍用電氣通信ノ重要性ニ鑑ミマスレバ、本改正案程度ノ制限ハ、必要已ムヲ得ナイモノト考ヘル次第デアリマス、以上申述べマシタル理由ニ依リ、本改正法律案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上、御協賛アラシコトヲ希望致シマス

○議長(小山松壽君) 本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○服部崎市君 本案ハ議長指名九名ノ委員ニ付託サレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセウカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

日程第五、牧野法中改正法律案、第一讀會ヲ開キマス

島田農林大臣

第五 牧野法中改正法律案(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

牧野法中改正法律案

第一條ノ二 行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ現ニ牧野タル土地ニシテ特ニ牧野トシテ保護スル必要アルモノヲ牧野特定地ニ指定スルコトヲ得

第一條ノ三 行政官廳公益上必要アリト認ムルトキ又ハ其ノ土地ノ牧野特定地トシテ存置スル必要ナシト認ムルトキハ牧野特定地ノ指定ヲ取消スコトヲ得

第一條ノ四 行政官廳牧野特定地ノ指定又ハ其ノ取消ヲ爲サントスルトキハ其ノ旨其ノ土地ノ所有者、其ノ土地ニ付登記シタル權利ヲ有スル者其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ニ通知シ且命令ノ定ムル所ニ依リ公示スベシ

行政官廳ハ前項ノ規定ニ依リ公示ノ日ヨリ三十日ヲ經過シタル後牧野特定地ノ指定又ハ其ノ取消ニ付牧野委員會ニ諮問スベシ

前項ノ規定ハ國有地タル牧野ニ付テハ之ヲ適用セズ

第一條ノ五 牧野委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一條ノ六 牧野特定地ノ指定又ハ其ノ

取消ニ關シ直接利害ノ關係ヲ有スル者其ノ指定又ハ取消ニ異議アルトキハ第一條ノ四第一項ノ規定ニ依リ公示ノ日ヨリ二十五日以内ニ意見書ヲ當該行政官廳ニ提出スルコトヲ得

第一條ノ七 行政官廳牧野特定地ノ指定又ハ其ノ取消ヲ爲シタルトキハ其ノ旨第一條ノ四第一項ニ掲グル者ニ通知シ且命令ノ定ムル所ニ依リ公示スベシ

第一條ノ八 牧野特定地ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲サントスル者ハ行政官廳ノ許可ヲ受クベシ但シ命令ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 開墾

二 造林

三 工作物ノ新築、改築又ハ増築

四 其ノ他牧野ノ保護ヲ妨グル虞アル行爲ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノ

前項ノ規定ハ第一條ノ四第一項ノ規定ニ依リ公示アリタル場合ニ於テ當該公示ニ係ル牧野特定地ノ豫定地ニ付之ヲ準用ス

第一條ノ九 行政官廳ハ牧野特定地ノ所有者其ノ他之ニ付使用收益ヲ爲ス權利ヲ有スル者ニ對シ其ノ牧野ノ維持又ハ改良ノ爲必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

政府ハ前項ノ規定ニ依リ牧野ノ維持又ハ改良ノ爲必要ナル事項ヲ命ゼラレタル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ豫算ノ範圍內ニ於テ其ノ執行ニ要スル費用ノ一部ヲ補助ス

第一條ノ十 牧野特定地ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ牧野ノ所有者其ノ他之ニ付權利ヲ有スル者ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第二條ノ二 北海道、府縣、市町村、牧野組合、畜産組合又ハ畜産組合聯合會ハ馬ノ生産飼育ノ爲放牧又ハ採草ヲ爲ス牧野ヲ經營スル爲土地ヲ取得シ又ハ使用スル必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ御料地又ハ國有地タリシ土地ニシテ現ニ公共團體又ハ私人ノ所有ニ屬スルモノ其ノ利用ノ極メテ不十分ナルモノニ付行政官廳ノ認可ヲ受ケ其ノ土地ノ所有者其ノ他之ニ付權利ヲ有スル者ト土地ノ讓渡又ハ使用收益ノ權利ノ設定若ハ讓渡ニ付協議ヲ爲スコトヲ得

行政官廳前項ノ認可ヲ爲サントスルトキハ牧野委員會ニ諮問スベシ

第二條ノ三 前條第一項ノ規定ニ依リ協議調ハザルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ同項ニ掲グル團體ハ其ノ土地又ハ其ノ土地ノ使用收益ノ權利ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ收用又ハ使用ニ關シテハ土地收用法ヲ適用ス

第四條 牧野ニ於テ放牧又ハ採草ヲ爲ス權利ヲ有スル者ハ牧野組合ヲ設立スルコトヲ得

命令ノ定ムル所ニ依リ共同シテ放牧又ハ採草ヲ爲サントスル者ニシテ行政官廳ノ指定ヲ受ケタルモノハ牧野組合ヲ設立スルコトヲ得

第五條 牧野組合ハ法人トシ牧野ノ維持若ハ改良ヲ圖リ又ハ放牧若ハ採草ニ關スル施設ヲ爲シ以テ組合員ノ共同ノ利益ヲ増進スルコトヲ目的トス

第七條ニ左ノ一項ヲ加フ

命令ヲ以テ牧野ニ準ズベキモノト定ムル土地ハ牧野組合ノ地區ニ關スル規定ノ適用ニ付テハ之ヲ牧野ト看做ス

第八條第六號ヲ左ノ如ク改ム

六 牛馬ノ受託放牧

七 放牧牛馬ニ關スル衛生施設

八 採草ニ必要ナル共同設備ノ設置
九 其ノ他組合ノ目的ヲ達成スルニ必要ナル事業

第八條ノ二 牧野組合ハ營利ヲ目的トシテ其ノ事業ヲ爲スコトヲ得ズ

第十條第二項ヲ削ル

第十條ノ二 行政官廳特ニ必要アリト認ムルトキハ牧野特定地タル牧野ニ付地區ヲ指定シ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ牧野組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ設立ヲ命ゼラレタル者ハ前條ノ規定ニ從ヒ其ノ設立ニ付行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

第十條ノ三 牧野組合ハ設立ノ認可ヲ受ケタル時成立ス

第十一條中「特別ノ事由ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受ケタル者」ヲ「命令ヲ以テ定ムル者」ニ改ム

第十三條中「第十條ノ認可」ヲ「設立ノ認可」ニ改ム

第二十一條ノ二 牧野組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ定款ヲ以テ總會ニ代ルベキ總會ニ關スル規定ハ前項ノ總會ニ之ヲ準用ス但シ總會ニ於テハ地區ノ増減又ハ事業ノ變更ニ關スル定款ノ變更及組合ノ解散ノ決議ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十二條中「第百三十六條乃至第百三十八條」ヲ「第百三十六條第一項、第百三十七條、第百三十八條」ニ改ム但書ヲ削ル

第二十五條ノ二 行政官廳必要アリト認ムルトキハ牧野組合又ハ命令ヲ以テ定ムル者ニ對シ牧野技術者ノ雇入ヲ命ズルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府ハ豫算ノ範圍内ニ於テ其ノ費用ヲ補助ス

第二十五條ノ三 行政官廳ハ牧野ノ所有者其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ニ對シ牧野ニ關スル事項ノ報告ヲ爲サシメ又ハ之ニ關スル書類帳簿其ノ他ノ物件ニ付

必要ナル検査ヲ爲スコトヲ得
第二十五條ノ四 行政官廳特ニ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ馬ノ所有者其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ニ對シ其ノ馬ニ付行政官廳ノ指定スル牧野ニ於ケル放牧又ハ放牧ノ委託ヲ爲スコトヲ命ズルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ牧野ノ所有者其ノ他ニ付使用收益ヲ爲ス權利ヲ有スル者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

前項ノ規定ニ依リ放牧又ハ放牧ノ委託ニ關スル條件ニ付テハ放牧又ハ放牧ノ委託ヲ命ゼラレタル者ト牧野ノ所有者其ノ他之ニ付使用收益ヲ爲ス權利ヲ有スル者トノ協議ニ依ル

前項ノ協議調ハザルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ行政官廳其ノ條件ヲ指定ス

第二十五條ノ五 政府ハ馬ノ生産確保又ハ資質ノ向上ヲ圖ル爲メ必要ナル場合ニ於テハ受託放牧ヲ爲ス爲牧野ノ經營ヲ爲スコトヲ得

行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ馬ノ所有者其ノ他命令ヲ以テ定ムル者ニ對シ其ノ馬ニ付前項ノ牧野ニ於ケル放牧ノ委託ヲ爲スコトヲ命ズルコトヲ得

第二十五條ノ六 第一條ノ二、第一條ノ三、第一條ノ八、第二條ノ二第一項又ハ第二十五條ノ四第三項ノ規定ニ依リ行政官廳ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ訴願スルコトヲ得

第二十五條ノ七 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第一條ノ八ノ規定ニ違反シタル者
二 第一條ノ九第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

三 第二十五條ノ四第一項又ハ第二十五條ノ五第二項ノ規定ニ依リ放牧又ハ放牧ノ委託ノ命令ニ違反シタル者

第二十五條ノ八 法人又ハ人ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人ハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルコトヲ得ズ

第二十五條ノ九 第二十五條ノ七ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十八條 第二十五條ノ三ニ掲グル者同條ノ規定ニ依リ行政官廳ノ徵スル報告ヲ差出サズ又ハ其ノ検査ヲ拒ミタルトキハ五圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

第二十九條 本法ニ於テ町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ町村ニ準ズベキモノトス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
(國務大臣島田俊雄君登壇)

○國務大臣(島田俊雄君) 只今議題トナリマシタ牧野法中改正法律案ノ提出ノ理由ヲ申上ゲタイト存ジマス、現時局下ニ於キマシテハ、軍事上並ニ産業上ノ見地ヨリ、馬ノ増産及ビ資質ノ向上ハ焦眉ノ急デアリマスガ、之ヲ達成致シマスル爲メハ、牧野ノ整備擴大ヲ圖ルコトガ必要デアリマス、特ニ内地馬政計畫ニ依リ要望セラレマス有能馬ノ生産ニハ、放牧ヲ必要ト致シマスコトハ、今次事變ニ於ケル幾多ノ事例ニ徴シ疑ハ、今所デアリマス、然ルニ我國ニ於ケル牧野ノ現狀ハ、此ノ牧野ノ使命ニ對シ、未ダ尙ホ遺憾ノ點ガ尠クナイモノト存ゼラレマスノデ、仍テ茲ニ牧野法ヲ改正シ、其ノ要求ニ應ゼントスルモノデアリマス

而シテ茲ニ提出致シマシタ牧野法中改正法律案ハ、過般ノ馬政調査會ノ答申ニ基キ立案致シタモノデアリマシテ、其ノ内容ノ主ナル事項ヲ申上ゲマス、先ヅ其ノ一ツハ牧野特定地ノ制度デアリマス、我國ニ於ケル牧野ノ現狀ハ、尙ホ一段ノ改良ヲ要スルト共ニ、之ヲ牧野トシテ確保スルコトヲ必要トスル狀態ニアリマスノデ、特ニ牧野トシテ保護スル必要アルモノヲ、牧野特定地ニ指定シ、是ガ改良ヲ促進シ、其ノ監督ヲ周密ニスルト共ニ、併セテ牧野ノ減少ヲ防止セント致シタノデアリマス

次ニ從來北海道等ニ於キマシテハ、御料地又ハ國有地ノ拂下ヲ受ケ、之ヲ殆ド利用スルコトナク、放置シテアルモノガ尠クナイノデアリマスガ、此ノ中牧野ニ適スル土地ヲ、牧野トシテ利用セシムルコトハ、極メテ適切ナルコトト存ジマスノデ、必要ニ應ジテ之ヲ使用收用シ得ルノ途ヲ開イタ次第デアリマス

更ニ又牧野組合ノ機能ヲ強化シテ、牧野ノ經營ヲ爲スコトヲ得ルコトトシ、或ハ牧野ノ經營者ニ對シ、牧野技術員ノ雇入ヲ命ズル途ヲ開イテ、牧野ノ維持改良ノ周到ヲ期シ、或ハ又必要ニ應ジテ放牧ヲ命ジ得ルコトトシ、以テ牧野ノ整備ヲ圖ラントシタ次第デアリマス

以上ノ如ク民營牧野ノ擴大整備ニ關スル諸方策ヲ講ズル外ニ、民間經營ニ依ツテハ、十分ニ其ノ成績ヲ舉グルコトノ困難ナリト認メラレモノニアリマシテハ、必要ニ應ジ、政府自ラ牧野ヲ經營シテ、有能ナル馬ノ造成ヲ圖リ、時局下ニ於ケル馬政ノ遂行ニ、遺憾ナキヲ期セントシタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上速ニ御協賛アラントヲ希望致シマス

○議長(小山松壽君) 質疑ノ通告ガアリマス、順次之ヲ許シマス——土田莊助君

○土田莊助君 只今上程議題トナリマシタ

牧野法中改正法律案ニ付テ、政府ノ所信ヲ質シタイト思フノデアリマス

此ノ牧野法ノ改正法律案ノ内容ニ於キマシテハ、現時戰時下ニ於ケル突發シタ問題ノ處理ニ關シ、應急的ノ措置ヲ法律案ト違ヒマシテ、事ハ當面ノ問題ヲ解決シ、更ニ將來永遠ノ農業ノ國策ニ觸レル所ノ恒久問題デアリマス、サウ云フ理由カラ致シマシテ、此ノ提案ヲ見マシタコトハ、今日全國各農民ノ歡喜措カザル所デアリマス、隨テ政府ニ期待スルコトモ實ニ多イデアリマス、然ルニ此ノ牧野法ノ内容ハ、法律ハ出來マシテモ、ソレニ對スル豫算ガ未ダ確定シテ居ラスノデアリマスカラ、此ノ牧野法ノ機能ヲ、如何ナル程度ニ發揮スルカ否ヤト云フコトハ、今後爲政者ノ抱負如何ニアルコト確信致スノデアリマス、併シナガラ此ノ問題ハ、既ニ日本各地ノ問題トナリマシテ、二十數年ニ互ツテ檢討サレタ問題デアリマス、而モ當業者ハ各種團體ヲ通ジマシテ、全國大會ノ決議ヲ以テ、幾多政府ニ折衝シタコトガアルノデアリマス、然ルニ歴代當局ハ、此ノ提案ヲ見ズシテ、今日色々ナ缺陷ヲ國內態勢ノ上ニ現ハスト云フコトハ、洵ニ遺憾デアッタノデアリマスガ、賢明ナル島田農林大臣ガ、茲ニ提案サレマシタコトニ對シマシテハ、本員ハ滿腔ノ敬意ヲ以テ、此ノ法案ノ成立ヲ期待スル次第デアリマス

(議長退席、副議長著席)

由來家畜ガナケレバ農業ハ無シト云フコトハ、古今ヲ通ジマシタ大キナ問題デアアルノデアリマス、又國防ニ對シマシテハ、兵馬ノ權ガ確立シナケレバ、國內ノ完壁ヲ期スルコトガ出來ナイト云フコトハ、有史以來ノ日本ノ國情デアアルノデアリマス、即チ國防産業ノ密接ナル關係、斯ウ云フ理由カラ致シマシテ、頗ル重大ナルモノデアアルノデアリマス、然ルニ大正五年以來、此ノ牧野ノ利用ガ禁止サレマシテ、過去ニ於ケル

吾々農民ハ、林野ニ對シマシテ入會權ノ制度ヲ認メラレテ居ツタノデアリマス、然ルニ二十數年以前ニ於キマシテ、此ノ入會權ノ禁止ト相成ツタノデアリマス、農業經營上又國防上、ソコニ非常ナル障礙ヲ來シタルデアリマス、其ノ結果ト致シマシテ、産業上ニ於キマシテハ、自給肥料ノ材料トナル所ノ秣ノ取入ガ出來ヌ、又家畜ヲ勞力ニ利用シテ、社會萬般ノ産業上ノ要求ニ應ジテアツタモノガ、其ノ生育モ漸次放牧場ノ制限ニ依リ低下致シマシテ、四苦八苦ノ苦ミニ喘イデ居ツタノデアリマス

而シテ自給肥料ノ減産ハ、遂ニ農家ヲシテ金肥ニ頼ツテ農耕ヲシ、サウシテ農産物ヲ生産シナケレバナラヌト云フ結論ニ達セシメタノデアリマス、而シテ金肥ノ需要ガ漸次増加致シマシテ、只今ニ於テハ既ニ數億圓ニ達シタノデアリマス、而モ米ノ價格ガ生産費ヲ割ツタ際ハ、金肥ヲ購入シタ費用全部ガ農家ノ借金ト相成リマシテ、今日五十億圓ノ農家負債、其ノ大半ノ原因タル、所謂牧野行政ニ對スル當時ノ政府ノ誤リカラ致シマシテ、今日ノ農民ノ痛苦ヲ見テ居ルノデアリマス、農民ハ入會權ノ禁止、或ハ農民ノミニ許サレマシタ酒ノ釀造、或ハ煙草ノ生産等、何レモ其ノ權益ハ奪ハレマシテ、愈々農村ハ自力更生不能ト云フ悲境ノドン底ニ陥レラレテ居ルト云フコトハ、社會問題トシテモ輕々ニスベキ問題デアハナイノデアリマス、而シテ最近ノ農村問題ニ關シマシテハ、國家ノ重要政策トシテ檢討サレマシタ結果、或ハ分與稅ノ問題、或ハ地方附加稅ノ問題等、幾多ノ農村對策ヲ考究サレテ居ルノデアリマスケレドモ、農業ノ基本トナルベキ有畜農業ノ計畫ヲ確立シナイ以上ハ、農業ノ經營ヲ經濟化スルコトハ出來ヌノデアリマス、ソコデ私共ハ此ノ際政府ガ此ノ法律案ニ依ツテ、飽クマデモ全農村ノ期待ニ背カナイヤウナ施設ヲ御願致シタ

イノデアリマス、現時日本ノ家畜ノ數カラ見マシテ、其ノ一箇年ニ消費致シマスル所ノ飼料ノ總數ハ、約四千萬噸ニ上ツテ居ルノデアリマス、此ノ四千萬噸ハ、最低ノ價格ニ見積リマシテモ、八億圓ト云フ經費ヲ要スルノデアリマス、政府ハ國防産業其ノ他刻下ノ重要性カラ致シマシテ、畜産ノ増殖其ノ頭數ノ確保ヲ民間ニ要望致スノデアリマヌガ、此ノ經濟的ノ犧牲ハ、全部全農家ノ負擔ト相成ツテ居ルノデアリマス、仍テ農家ハ負擔ノ重壓ニ依リマシテ、農産物生産ノ生産費ガ非常ニ昂騰致シマシテ、今日社會問題ニ於ケル所ノ統制價格等、幾多ノ問題ガ派生致シテ居ルノデアリマス、低物價政策ヲ遂行致サントスルコトハ、根本ニ於テ生産費ヲ低減スルコト云フコトニ立脚シテ、初メテ全國國民ノ納得ガ行クノデアリマヌガ、政府ガ何等此ノ方策ヲ講ジナイ際ニハ、幾ラ法律ノ力ヲ以テシテモ、遂ニ闇取引ト云フ忌ハシキコトガ、各社會ノ裏面ニ流レテ居ルト云フノガ、現實ノ姿デアアルノデアリマス

仍テ只今政府ノ計畫シテ居ル法案ノ内容ヲ見マスト、國營牧野ノ設置、府縣知事ノ命令ニ依リ指定牧野ノ設置、民有地ノ牧野化、此ノ三ツニ依ツテ牧野ノ所要面積ヲ獲得セント致シテ居ルノデアリマス、而シテ又牧野組合ノ機能ヲ擴大シ、サウシテ圓滿ナル牧野ノ發達ヲ促シ、次ニハ牧野ノ整備ニ關シマシテ、政府ハ命令ヲ以テ其ノ牧野ノ整備計畫セシメル、此ノ五ツガ重要ナル所ノ内容デアアルノデアリマスルガ、政府ノ考ヘテ居ル面積ハ、約百六十万町歩ノ範圍シカナイヤウニ窺ハレルノデアリマス、而シテ私共ハ在來認メラレテ居リマシタ所ノ混牧政策、所謂山林ノ中ニ馬ノ放牧ヲ許ス、斯ウ云フコトニ對シマシテハ、政府ハ何等考ヘテ居ラレナイ、是非非常ナル缺陷デアリマシテ、ドウ致シマシテモ、此ノ混

牧政策モ併セテ將來政府ガ考究スル必要ガナイカドウカ、此ノ點ヲモ伺ハントスルノデアリマス

サウシテ政府ノ増産計畫ニ依リマスト、牛馬ニ於テ約四百萬頭ノ計畫ヲ立テテ居ル、併シナガラ百六十万町歩ノ牧野ヲ利用致シマシテ、如何ニ其ノ整備ヲ致シマシテモ、四百萬頭ノ家畜ノ生産資源ニ充テルト云フコトハ、洵ニ無謀ナル計畫ト云ハナケレバナラヌデアリマス、少クトモ政府ハ八百万町歩近クノ牧野ヲ設置シナケレバ、ドウシテモ當面ノ問題ヲ解決スルコトハ出來ヌコトハ、是ハ全國國民ノ認メル所デアアルノデアリマス、而シテ若シモ政府ガ民間ノ要望ヲ容レマシテ、此ノ家畜ノ生育ニ適當ナル林野ヲ開放致シマシタナラバ、ソコニ初メテ有畜農業ノ實體ヲ現ハスコトガ出來ルノデアリマス、有畜農業ヲ政府ガ採入レマシテ、産業上ニ貢獻シ、國防上ニ貢獻スルト云フコトハ、一ツノ劃期的ノ農業政策ノ進歩デアリマシテ、隨テ之ニ對シテハ又非常ナ訓練ヲ要スルノデアリマス、單一ナル穀救農業ハ、大シタ技能ヲ要セズシテ、其ノ目的ヲ達成シ得ルノデアリマスルガ、一旦生産サレマシタ農産物、竝ニ刈取りマシタ草ヲ、更ニ之ヲ變化サセマシテ、動物ニ變化サセルト云フコトハ、一ツノ有畜農業ノ問題デアリマシテ、所謂更ニ農業ノ上ニ、其ノ農産物ヲ家畜ニ變化サセルト云フ機能ガ、所謂畜産行政、畜産技術デアアルノデアリマス、サウ云フ點カラ考ヘテ見レバ、政府ハ此ノ有畜農業ヲ徹底化シ、サウシテ總テノ方面ノ農産物ノ増産ヲ計畫スル場合ニ於テハ、幾多ノ有畜農業ニ訓練ヲ與ヘル所ノ施設ガナケレバナラヌト思フノデアリマス(拍手)

サウ云フ實際上ノ問題カラ考ヘマシタ時ニ、私共ハソコニ遺憾ノ點ガ多イノデアリマシテ、現在ノ農民ニ之ヲ教ヘ込ム、拓殖

計畫ニ依ツテ教ヘ込ムト云フコトモ、一ツノ方法デアリマスルガ、更ニ進ンデ現在ノ青少年ヲシテ、此ノ有畜農業ノ眞髓ヲ體驗サセルト云フコトモ、相當大キナ問題ト思フノデアリマス、而シテ私共ハドウシテモ此ノ有畜農業ヲ徹底致シテ結果ト致シマシテハ、日本ノ農産物ノ生産額ガ、現在ヨリ五割ノ増産シ、米ハ現在一石一斗六升ノ反當リノ生産デアアルノデアリマスガ、各農事試驗場並ニ各篤農家ガ家畜ヲ利用シテ、眞ニ有畜農業ヲ徹底シタ箇所ニ於キマシテハ、三石、四石乃至ハ五石ノ増産ヲ爲シテ居ルノデアリマス、又此ノ家畜ノ排泄物タル自給肥料ノ管理ニ於キマシテモ、現在ノ狀態ハ非常ニ缺陷ガ多イノデアリマス、日本ノ家畜ニ依ル堆肥並ニ其ノ肥料ハ、有效成分ガ六割飛散致シマシテ、其ノ殘ル成分ガ唯四割ト云フコトニ相成ツテ居ルノデアリマスガ、眞ニ之ヲ合理化シタ際ニ於キマシテハ、ドウシテモ其ノ飛散スル部分ガ二割デ、八割ノ有效成分ガ殘ルト云フコトニ相成ツテ居ルノデアリマシテ、既ニ農林省ノ研究ニ於キマシテモ、若シ一町歩一頭當リノ家畜、更ニ進ンデ政府ノ謂フ四百萬頭カラ六百萬頭ノ大家畜ヲ、日本ノ國內ニ確保シテ參リマスレバ、現在ノ窒素、磷酸加里ノ肥料所要ノ成分ノ尙ホソレ以上ノ増産ガ出來マシテ、或ル場合ニ於キマシテハ、其ノ成分ヲ國外ニ輸出致シテモ宜シイ、サウ云フ程度マデ研究ガ進ンデ居ルノデアリマス

ハ第一ニ此ノ有畜農業ヲ立派ニ活用スルト云フコトハ、一番其ノ國民生活ヲ安定ニシ、國力ヲ強化シタ所以デアツデ、現ニ亞米利加ハ南北戦争ノ後ニ於テ非常ニ國力ガ疲弊致シタ、今日ノ亞米利加ノ發展、亞米利加ノ國力ノ強化サレタ大ナル原因ノ一ツハ、農牧政策ヲ亞米利加ガ採ツタコトデアアル、或ハ獨逸ハ普佛戦争ノ後ニ土地問題ヲ解決致シマシタノデアリマスガ、食糧ノ安定ハ未ダニ出來得ナイノデアリマス、又伊太利ハ伊土戦争ノ後ニ於キマシテ工場ノ分布ヲ計畫致シタノデアリマスガ、是亦今日伊太利ハ食糧ノ完璧ヲ期シ得ナイノデアリマス、或ハ千八百年ノ當初ニ於キマシテ、濠洲、加奈陀ノ開墾ニ於テ、歐洲ニハ中歐諸國ニ小麥ガ大水ノヤウニ流レ込ミ、其ノ時單一穀農業ヲ農業ノ主體ト致シマシタ歐洲ハ、非常ナル打撃ヲ受ケテ、農民ハ四苦八苦ノ苦ミヲ嘗メタ、ソレニ對シマシテ、ヤハリ何十年カノ歲月ヲ費シテ、有畜農業ヲ經營化シテ、今日世界農村ニ範ヲ垂レテ居リマス丁抹ノ農業政策ナドハ、全ク二百何十年ノ歲月ヲ費シテ今日ニ至ツテ居ルト云フコトハ明カデアアルノデアリマス、仍テ私ハ今日日本ハ此ノ戰時下ニ於キマシテ、此ノ食糧不安カラ國民ヲ救ヒ、又第三國カラ輸入ヲ仰グ肥料ヲ、自給自足ニ依リマシテ、此ノ肥料部門ニ於キマシテモ、確固タル政策ガ確立致スト云フコトハ、過去ノ世界産業ノ歴史ヲ通ジマシテ、最も貴キ施設デナケレバナラスト思フノデアリマス

サウ云フ理由カラ考ヘテ見マシタ時ニ、之ニ對スル經費ハ、然ラバドレダケアレバ宜イカト云フコトヲ、私共ノ體驗ノ上カラ所信ヲ披瀝シテ、政府ノ所信ヲ質シタイト思フノデアリマス、私共ハ拓殖計畫ニ於キマシテハ、ドウシテモ二十箇年ノ歲月ト、八億圓ノ經費ガ必要ト思フノデアリマス、ソレカラ致シマシテ、此ノ青少年ノ有畜農業ヲ訓練スル爲ニハ、ドウシテモ一年ニ一億圓、二十箇年ニシテ二十億圓ノ經費ガナケレバ、立派ニ其ノ目的ヲ遂行スルコトガ出來ナイト思フノデアリマス、是ハ最小限度ニ於テデアアルノデアリマス、現在軍隊ガ軍馬ヲ購入致シマシテ、戰地ニ持ツテ參リマシテ、血氣ナ軍人ガ戰地ニ於キマシテ其ノ馬ヲ訓練スル際ニ於キマシテ、其ノ訓練ガ、所謂軍用鍛鍊馬ト云フモノハ、昨年ノ議會デ決定致サレマシテ、今ヤ全國津々浦々ニ、其ノ軍用鍛鍊ト云フコトヲヤラナケレバ、其ノ性能ヲ發揮シ得ナイ所ノ狀況ニ相成ツテ居ルノデアリマス、況シテ農民ガ此ノ有畜農業ノ政策ヲ採入レテ、眞ニ米ノ増産、肥料ノ自給自足ヲ計畫スル上ニ於キマシテ、此ノ馴致ト云フコトハ、非常ニ重大ナ大キナ問題ト相成ルノデアリマス、例ヘバ鶏ヲ飼ツテモ、年ニ百箇ノ鶏、三百箇ノ鶏ト云フヤウニ、非常ニ性能ガ違ツテ來ル、乳牛ヲ飼ヒマシテモ、年ニ十石モアルシ、三十石モアル、此ノ天賦ノ性能ヲ十分發揮サセラルニ於キマシテハ、ソコニ青少年ノ頃カラシテ、有畜農業ト云フコトノ觀念ヲ與ヘ、之ヲ馴致シナケレバ、折角動物ノ數ヲ集メ、サウシテ幾多ノ施設ヲ致シマシテモ、其ノ效果ハ甚ダ微弱ト相成リマシテ、又肥料ノ處理ノ問題ニ對シマシテ、有效成分ハ割ヲ殘スト云フコトニ對シマシテハ、相當ナル所ノ經驗ヲ持タナケレバ出來ヌノデアリマス、肥料對策、食糧對策、此ノ完璧ヲ期スルノハ、將ニ今日戰後ノ對策トシテ、必ズ必要ナ大キナ問題デアアルノデアリマシテ、政府ハ二十數億ノ金ハ、金ハ多額デアアルノデアリマスルガ、民間ガ今日家畜ノ飼養費ニ對シテ、一箇年八億圓ノ犧牲ヲ拂ツテ居ルコトヲ考ヘテ見マシタ時ハ、其ノ金額ハ決シテ莫大デハナイノデアリマス、併シナガラ戦争ハ必ズ勝タナケレ

バナラス、支那大陸ハ必ズ建設シナケレバナラスト云フ所ノ、國策ガ樹立シタ以上ニ於キマシテハ、一文モ餘分ナ經費ハ現在私ハナイト思フノデアリマス、然ラバ此ノ財源ヲ公債ニ求メルト云フコトモ、洵ニ是ハ將來國民ノ負擔ト相成ルノデアリマスルカラ、成ベク別途ノ方法ニ於テ、此ノ二十八億圓ノ金ヲ捻出シナケレバナラス、然ラバ之ヲドウスルカ、是コソ眞ニ政治ノヤリ方デアリマシテ、吾々ハ馬産ノ獎勵ニ對シテ、公認競馬ニ依ツテ其ノ費用ヲ捻出シタ如ク、吾々ハ農産物貨ヲ消費スル過程ニ於キマシテ、此ノ二十八億ト云フ金ヲ捻出スルコトハ、政府ノ考ヘヤウニ依ツテハ出來得ナイコトハナイノデアリマス、前内閣ハ、米ガ不足デアアル、米ガ不足デアアルナラ節米ヲスレバ、ソレデ米ガ餘ルデハナイカ、斯ウ云フ簡單ナ理由カラ、白米禁止令ト云フモノヲ出シテ、今日白米ハ食ヘナイ、併シナガラ七分搗、胚芽米ハ、營養價ハアルカモ知レマセスガ、退行年齡ノ人ニ對シテハ、消化ガ非常ニ難カシク胃腸病ニナル、サウシテ不味イ、デアアルカラ孝行ナリ子供ハ、所謂七分搗ヲ買ツテ來マシテ、オ婆サンヤオ父サンニ食ハセル爲ニ機械ヲ買ツテ、白米ニシテソレヲ食ハセル、其ノ勞苦ト苦心ト云フモノハ相當大ナルモノデアアル、而モ飼料トナルベキ貴イ米糠ヤ「ゴザキ」ハ流失シマシテ、大ナル所ノ損失ヲ招ク、所謂飼料ノ不足ト云フコトモ、サウ云フコトカラ來テ居ル、一億五千萬石ノ日本ノ平時ニ於ケル米ノ產額ノ中ニ於キマシテ、其ノ三分ノ一ハ、國民保健ノ上カラ見マシテモ、ドウシテモ白米ヲ食ハセナケレバナラスヤウナ國情ニアルノデアリマス、ソレデ私ハ此ノ白米ニ課稅致シマシテ、石四圓ノ課稅ヲ致シマス、一箇年ニ一億四千萬圓ト云フ所ノ金ガ出テ來ルノデアリマス、而モ一石ノ米ハ、退行年齡ノ人ニ取ツテハ一箇年ノ消費

量アルノデアリマス、四圓ヲ拂ツテ年中
白米ヲ食フコトハ、今七分揚ヲ買ツ
テ白米ニスルコトハ、其ノ間ノ努力ノ消耗
トカ、或ハ貴キ食糧資材ヲ水ニ流失スル
カ、サウ云フ觀念カラ考ヘテ見マシタ時
ハ、白米ナル特殊ノ食料ヲ食フコトハ、
於キマシテ、一日ニ一錢何厘カノ支拂ト云
フコトハ、白米ヲ食ベル人ハ、年々四圓
ト云フ額ヲ政府ニ納メルコトハ、却テ喜
デ出スト云フ結果ニナルデアリマス、之
ヲ現狀ノヤウニ致シマスルト、「コザキ」ハ水
ニ流失シ、貴キ飼料トナル所ノ米糠ハ流失
致シマシテ、洵ニ勿體ナイト云フコトヲ考
ヘツツモ、總テ人間ハ生命ヲ維持スルコ
トヲ要求ハ、如何ナルモノヲ超越致シマシ
テ、勿體ナイト知リナガラ、國ノ提ニ反イ
テマデモヤツテ居ル、是ハ國民ノ現在ノ心
理狀態カラ考ヘマシテ、石四圓ノ金ヲ出ス
コトハ、實ニ喜ンデ出スノデアル、是ガ一
年ニ一億四千圓、其ノ中拓殖經費ニハ四
千萬圓、又青少年ヲ訓育スル學校機構ノ改
革ニ對シマシテハ、一億圓、二十年ヤツテ
二十八億ト云フ所、此ノ莫大ナル所ノ金
ハ、簡單ナル所ノ政府ノ方針ニ依ツテ、實
現スルコトガ出來ルノデアリマス

私ハ更ニ進ンデ大陸ノ長期建設ト云フ問
題ハ、武力ニ依ツテ敵ヲ制壓シ、治安ヲ確保
スルコト云フコトハ勿論デアリマス、長
期ノ建設ハ、所謂經濟建設デナケレバナラ
ス、日本ノ内地ニ於キマシテモ、國力ノ強
化ハ、所謂武力ノ戰ト、經濟力ノ戰デナケ
レバナラス、サウ考ヘマシタ時ニ於キマシ
テハ、此ノ支那人八割五分ノ住民ヲ指導スル
ニハ、ドウシテモ之ニ確固タル所ノ拓殖計
畫ヲ以テ、支那住民ハ日本ノ所謂拓殖計畫
ヲ眞似シテ、眞ニ其ノ生活ノ安定ヲ日本ヲ
手本トシテ致スト云フ風ニ導イテコソ、眞
ニ支那ノ經濟的建設ガ出來ルノデアリマシ
テ、此ノ武力ノ戰ト相俟ツテ、經濟戰ト云

フコトニ重點ヲ置カナケレバナラス、サウ
考ヘマシタ時ニ、只今學校ニ於テ軍事教練
ヲヤツテ居ル、幾多ノ訓練ヲ學校生徒ニヤラ
セテ居ル、是ト相俟ツテ所謂產業經濟ノ
訓練ヲサセルコトガ、現時局下ニ於キマ
シテ、ドウシテモ必要ナ問題ト思フノデア
マス、唯軍事訓練ノミヲヤツツノデハ、眞
ノ大陸經濟建設ハ出來ナイノデアリマス
ラ、茲ニ生產經濟、產業經濟ノ訓練ヲ學校ノ
課程ニ織込ミマシテ、サウシテ總テ經濟戰
線ニ日本ガ優秀ナル地歩ヲ世界ノ上ニ占メ
テ——東亞ノ建設ハ勿論デアリマス、サウ
シテ行ツタナラバ、亞米利加ノ現在ノ富ナ
ドト云フモノハ、テンデ問題ニナラヌノデ
アリマス、サウ云フ考カラ見マスレバ、此
ノ拓殖計畫、所謂有畜農業ノ計畫ヲ國民教育
ノ上ニ織込ム、サウシテ少クモ中學校三
年以上ノ學生ニ對シマシテハ、只今勤勞奉
仕ト云フコトヲヤラセテ居リマスガ、之ヲ
生產勤勞ニ向ハセナケレバナラス、假ニ一
箇年六十日間生產勤勞ニ從事シタトシマス
レバ、其ノ學生自身ノ衣食ノ費用ガ全部賄
ヒ得ルノデアリマス、即チ公立ノ學校ニ入
ツタ生徒ハ、中學校三年以上ニナリマスレ
バ、父兄カラ一厘ノ學費モ貰ハズシテ、立
派ニ大學ヲ卒業シ得ル、サウシテ立派ナル
體力ヲ以テ社會ニ雄飛シ得ルコト云フ、大キ
ナ問題モ裏面ニ伏在シテ居ルノデアリマス、
今農村ノ所謂幾多ノ經濟上ノ問題ノ中、最
モ重壓ナル問題ハ、子弟ノ教育費デアルノデ
アリマス、此ノ子弟ノ教育費ハ、ソレニ依
ツテ其ノ重壓ヲ除キ得ルノデアリマス

〔議長注意シロ〕ト呼ヒ其ノ他發言ス
ル者アリ
有畜農業ヲ實地ニ織込ム所ノ拓殖計畫ノ裏
面ニ於テハ、非常ナル大キナ問題ガ含マレ
テ居ルノデアリマシテ、總テ學校ヲ卒業ス
ル學生ハ、必ズヤ片輪デナイ以上ハ、軍隊ニ
入ラナケレバナラス、其ノ時現在ノ學生ノ

境遇ト、軍隊生活ノ境遇ノ上カラシテ、非
常ニ變化ガ多イ爲ニ、本人ノ惱ミハ勿論、
軍隊自身トシテモ、其ノ訓練ニ非常ニ餘分
ナ手數ヲ重ネナケレバナラス、是ハ本人ノ
爲ニモ、亦國軍ト致シマシテモ、洵ニ遺憾
ノ點ガアルノデアリマス、ソレヲ此有畜農
業ノ計畫ニ依リマシテ體力ヲ練リ、眞ニ立
派ナル體力ヲ以テ學校ヲ卒業シタ場合ニ於キ
マシテハ、軍ニ於キマシテモ、其ノ基本的
體質ガ出來テ居ルノデアリマス、軍
事訓練モ短期ニシテ立派ナル成果ヲ擧ゲ得ル
ト云フ、裏面ニ大キナ問題ガ伏在シテ居ル
ノデアリマス、仍テ政府ハ大ナル決意ヲ以
テ、長年私共國民ガ要望致シマシタル所ノ
牧野ノ開放、牧野ノ利用、而シテ有畜農業
ヲ實現化シテ、食糧ノ不安ヲ除キ、飼料ノ
供給ヲ圓滑ニシ、以テ國家國民ノ最モ健全
ナル所ノ發達ヲ促シ、經濟力ニ於テモ、國
防ノ上ニ於キマシテモ、智力ノ上ニ於キマ
シテモ、活動力ノ上ニ於キマシテモ、ヤハリ
日本國民ノ偉大ニシテ且ツ健全ナル者ヲ造
リ上ゲルト云フコトハ此ノ戰時下ニ於テハ
勿論、將來永遠ノ問題トシテ、之ヲ十分御
檢討ニナラナケレバナラス所、大キイ問
題デアルノデアリマス、特ニ此ノ有
畜農業ノ派生ノ裏面ノ問題ニ於キマシテ、
若シ政府ノ御答辯ヲ得マスレバ、私ハ洵ニ
幸ト致スノデアリマス、之ヲ以テ質問ヲ打
切リマス(拍手)

〔國務大臣(島田俊雄君登壇) 土田君ノ御質問
中、放牧林ニ關スルコトニ付キマシテハ、
是ハ有畜農業ノ必要デアルコトハ固ヨ
リデアリマスガ、御承知ノ如ク我國ニ於ケ
ル牧野ノ狀況ハ、面積尙ホ不十分デアリマ
シテ、之ヲ擴張シ牧野ノ經營ヲ豐カニシタ
イト云フコトガ、今回ノ提案ノ一ツノ理由
ニナツテ居ル次第デアリマスガ、將來國有

林野等ニ付キマシテ、之ヲ開放シテ牧野ニ
改メ、或ハ未ダ利用セラレザル土地ニ對シ
マシテ牧野ノ設定ヲスル、斯様ナコトヲ致
シマスルト共ニ、放牧林ノ方法ヲ用ヒマシ
テ、林野ノ中ニ馬ヲ放牧シテヤルト云フヤ
ウナ事柄ニ付キマシテハ、是ハ必要ナコト
ト考ヘマスルカラシテ、將來ニ於テ此ノ點
ニ付キマシテハ、十分研究ヲ致シテ見タイ
ト考ヘテ居ル次第デアリマス

次ニ有畜農業ノ知識ヲ普及セシメ、青少
年ニ是等ノ知識ヲ普及セシメテ、馬産ノ上
ニ貢獻ヲサセルヤウニシタイト云フ御意見
ニ付キマシテハ、是ハ極メテ適切ナル御意見
ト考ヘテ、是等ノ點ニ付キマシテハ、關係ノ當
局トモ能ク協議ヲ致シマシテ、其ノ實現ヲ期
スルヤウニ致シタイト考ヘル次第デアリマス

次ニ馬政ノ關係ニ付テ財源ノ問題デアリ
マスガ、之ニ付キマシテハ、御承知ノ如ク
從來競馬ニ依ル政府納付金ト云フモノヲ大
體基礎ト致シマシテ、馬政ノ振興ヲ圖ツテ
居ツタノデアリマスガ、現時ノ時局ニ鑑ミ
マシテ、是等ノ收入ノ範圍内ニ於テスルト
云フコトハ、狭小ニ過ギルト云フ考カラ致
シマシテ、昭和十四年度以降ニ於キマシテ
ハ、此ノ納付金ノ金額ニ拘ラズ、之ヲ超過
シテ馬政ニ關スル經費ニ支出スルコト云フ
方針ヲ執リマシテ、其ノ考ヲ以テ財源ノ關
係ヲ振合セテ居ルヤウナ次第デアリマス、
尙ホ多岐ニ互ツテ御質問ガアリマシタガ、
ソレ等ノ點ニ付キマシテハ他ノ機會ニ御答
ヲスルコトニ致シマス(拍手)

〔政府委員(子爵舟橋清實君登壇) 只今土田君
カラノ御質問ニ付キマシテ、大臣差支ガゴ
ザイマスノデ、私カラ御答辯申上ゲマス、
御質問ノ、有畜農業獎勵ニ關スル御質問ノ
要旨ハ、能ク拜承致シマシタ、ソレニ付キ
マシテ、文部當局ト致シマシテ只今實行致
シテ居リマスル點ヲ簡單ニ申上ゲマス

即ち畜産農業ノ教育獎勵ノ見地ヨリ致シマシテ、農學校ニ於キマシテハ、牛馬ノ飼養ニ付キマシテ、實習研究致シマスル目的ヨリシテ、只今補助獎勵ノ施設ヲ講ジテ居リマス、更ニ御質問ノ中ニ、百八十万町歩ノ牧野ヲ利用スルニ付キマシテ、青少年殊ニ學生ヲ動員致シマシテ、有畜農業ヲ實習セシメ、ソレニ依ツテ農產物增收ノ國策ノ一助ニシテハドウカト云フ、極メテ遠大ナル御計畫ガ盛ラレテ居ルモノト拜承致シマス、御意見ノ中デ、學生ヲ利用スルト云フコトノ御趣旨ハ、極メテ同感デアリマス、併シナガラ之ニ付キマシテハ學業ノ關係等モゴザイマス、又經費ノ關係等モゴザイマス、影響スル所極メテ大ナルモノガアルト信ジマス、就キマシテハ是ガ實行ニ付キマシテハ、十分ニ研究考慮致シタイト考ヘテ居リマス(拍手)

○副議長(田子一民君) 杉山元治郎君

(杉山元治郎君登壇)

○杉山元治郎君 昨ハ只今上程ニナリマシタ牧野法中改正法律案ニ付キマシテ、簡單ニ質疑ヲ試ミタイト存ジマス、抑、牧野法ハ、昭和六年四月一日法律第三十七號ヲ以テ發布セラレ、同十四年法律第六十八號ヲ以テ改正セラレタモノデアリマス、今回ノ改正ハ、只今大臣ノ御説明ニナリマシタヤウニ、事變下馬ノ増産並ニ資質ノ向上上期シマスル爲ニ、牧野ノ整備擴大ヲ圖ル必要上爲サレタモノデ、其ノ要點ハ、牧野特定地ノ制度、民有未利用地ノ牧野化、牧野組合ノ機能強化、牧野經營ノ積極的指導、國營牧野ノ設置等デアルト考ヘルデアリマス、ソコデ本法案並ニ之ニ關聯致シマスル事項ニ付キマシテ農林大臣並ニソレノ所管ノ大臣ニ御尋致シタイト存ズルデアリマス

ラバ、如何ナル方策ヲ執ルヤト云フ點デアリマス、一寸表面的ニ、又近視眼的ニ考ヘマスルナラバ、機械ノ進歩發達致シマシタ今日、軍ニ於ケル馬ノ必要性ガ、漸次減少スルノデナイカト思ハレルデアリマス、ガ、事實ハ之ニ反對デアリマシテ、日露戰爭ノ際ハ、兵百萬人ノ動員ニ對シテ、馬十九萬頭デアリマシタモノガ、滿洲事變及ビ歐洲大戰デハ、兵百萬人ニ對シテ、馬二十五萬頭ヲ要シテ居ル事實ニ徴シマスレバ、近代戰ニハ少クトモ兵百萬人ニ對シ、馬三十萬頭ガ必要デアラウト類推サレテ居ルデアリマス、若シ大陸ニ於テ數百萬ノ兵ヲ動かス爲ニハ、ドウシテモ有能馬モ亦百萬頭位保有シテ置カネバナラスコトハ當然デアリマス、政府ハ曩ニ明治三十九年カラ昭和十五年マデ三十年間、第一次馬政計畫ヲ立テ、幸ニ農家ヲシテ百五十萬頭ヲ飼育保有セシメタノデアリマス、又昭和十三年ヨリ三十年間ヲ期シ、第二次馬政計畫ニ入ツタノデアリマスガ、丁度事變ニ當面致シマシテ、統計ニ依リマスト、事變前既ニ馬ノ飼養戶數ニ於テ、頭數ニ於テ、自然増加數ニ於テ、減少ヲ來シテ居ルデアリマス、例ヘバ、大正十三年ニ飼養戶數百十七萬戸アツタモノガ、昭和十一年ニハ百七十七萬四千戸トナリ、比率ニシテ八分三厘ノ減少トナツテ居ルデアリマス、明治三十三年カラ同三十七年マデノ五箇年間、平均百五十萬頭飼育シテ居タモノガ、昭和十一年ニ百四十三萬一千頭ニナリ、比率ニシテ四分六厘ノ減少デアリマス、昭和七年カラ十一年マデノ五箇年間、平均一箇年ノ生産數ハ、十一萬七千頭デアリマス、昭和十一年ノ斃死並ニ屠殺數合計十一萬八千頭デ、遙ニ生産數ヲ凌駕シテ居ルデアリマス、爾來事變トナリ、多數ノ馬ハ徵發サレテ大陸ニ行ツテ居リマス、生産減ハヨリ多クナツテ居ラウト察セラレルデアリマス、然ル

ニ昨年軍馬資源保護法ガ本議會ニ上程ノ際、當局ハ百五十萬頭ノ飼育、軍ノ適齡馬五歲乃至十七歲ノモノ、百萬頭保有スル目的ヲ以テ進ムト申サレマシタガ、此ノ計畫ガ果シテ順調ニ進ミツツアリヤ否ヤ伺ヒタイノデアリマス、私共ノ考デハ減退シテ居ルノデハナイカト心配シテ居ルデアリマス、其ノ理由ハ、馬ノ飼育ガ農家ノ經濟上利益ニナラナイ、ダカラ東北地方ニ於キマシテハ、產馬事業ヲ犧牲產業トマデ申シテ居ルデアリマス、故ニ貧農ニハ飼ヘナイノデ漸次馬カラ牛ヘト乗替ヘル傾向ガアルデアリマス、統計ニ依レバ、牛ハ昭和二年カラ六年ノ五箇年間、平均百四十九萬一千頭ノモノガ、昭和七年カラ十年ノ四箇年、平均百五十九萬七千頭トナリ、十萬六千頭モ増加シテ居ルデアリマス、然ルニ馬ハ百四十八萬九千頭ヲ一歩モ出テ居リマセズ、況シテヤ前申述ベマスルヤウニ、徵發馬ノ大陸ヘノ進出、飼料ノ不足並ニ昂騰、斯ウシタコトカラ一層ノ減少ヲ豫想サレルデアリマス、農林大臣ハ或所デ牛馬ヲ減ズルカ、飼料ノ値上カ、政府ガ腹ヲ切ルカ、此ノ三ツノ案ヨリ方法ガナイト言ハレテ居リマシタガ、マサカ政府ガ腹ヲ切ルコトモ出來ズ、低物價政策デ飼料ノ値上モ出來ズ、サウスルナラバ、結局牛馬ヲ減ズルコトニナルヨリ外ナイガ、之ニ對シマスル政府ノ所見ハ如何デゴザイマスルカ、若シ順調ニ此ノ増産計畫ガ進ンデ居ラナイト致シマスナラバ、如何ナル新シイ對策ヲ執ツテ其ノ方策ニ順應シテ行カウトスルデアルカ、其ノ點ヲ併セテ伺ヒタイト存ズルデアリマス、増産ノ近道ハ、利益ノ少ナイ所ノ飼養家ニ補助ヲ與ヘルコトデアルト考ヘルノデアリマス、勿論軍用保護馬ノ飼育者ニハ、年ニ約四十圓ノ補助金ヲ與ヘラレテ居リマスガ、飼料高、勞銀高ノ今日、補助金ヲ増

加スルノ意思ハナイカ、單ニ保護馬バカリナシニ、保護馬ヲ作出シマス爲ニ、多クノ馬ヲ飼養シナケレバナラナイコトヲ考ヘマスル時ニ、有能馬以外ノモノニ對シテモ、何等カノ保護、援助ヲ與ヘル方法ヲ講ズル必要ハナイカ、此ノ點モ併セテ御同致シタイト思フデアリマス(拍手)

第二點ハ、牛馬ノ飼料ニ關シマスル所ノ問題デアリマス、此ノ點ニ關シテ數箇ノ點ヲ御同致シタイト存ズルデアリマス、牛馬ノ飼料ハ、昭和十年ノ調査ニ依リマスルト、飼料供用見込額四百四十餘萬噸、其價額一億六千六百萬圓ノ中、牛馬ノ飼料トナリマスルモノハ二百九十一萬噸デ、總額ノ六割六分ニ當ツテ居ルデアリマス、所ガ飼料ノ國內生産ハ、約七割五分デアリマシテ、他ハ支那產ノ穀、加奈陀及ビ支那產ノ小麥、「ジャワ」及ビ滿洲產ノ玉蜀黍或ハ高粱、大豆粕、各種ノ配合飼料ノ輸入ニ俟ツテ居ルデアリマス、併シ飼料ハ事變以來價格ノ昂騰ヲ續ケ、九・一八ノ物價停止令ノ發セラレル時、既ニ前年ニ比シ三四割ノ騰貴ヲ見テ居ルデアリマス、價格停止ト共ニ原料ノ入手ハ困難トナリ、一方不採算ノ爲配合飼料ヲ中止スル者ガアリ、其ノ後更ニ重要飼料タル穀ノ生産並ニ輸入ガ共ニ激減致シマシタ爲、非常ナ品不足ヲ生ジ、代用品デアアル米糠モ亦七分揚ヤ米糠統制法ノ爲出廻ガ全クナク、闇取引ガ横行シテ居ルヤウナ有様デアリマス、先般豫算委員會ニ於キマシテ、同僚三宅君ガ申上ゲマシタヤウニ、小麥一貫目ト其ノ皮デアリマス所ノ穀一貫目トガ、同一値段デ取引サレテ居ルト云フヤウナ、馬鹿々々シイコトガ到ル處デ行ハレテ居ルデアリマス、斯ルコトヲ果シテ牛馬初メ家畜、家禽等ノ増産ガ出來ルカドウカ、此ノ點ニ關シテ政府ノ所見ヲ伺ヒタイノデアリマス(拍手)私ノ所ハ此ノ飼料ニ關シテ多クノ手紙ガ參ツテ居リマ

ス、昨日モ丁度伯耆大山ノ麓ニアリマス所ノ、中國ノ馬産地カラ一通ノ手紙ガ参リマシタ、政府ニ爲ノナイ此ノ醇朴ナ農民ノ聲ヲ聴イテ戴キマス爲ニ、其ノ一節ヲ讀ムコトニ致シマス、「吾々馬産家ノ目下ノ直面シテ居ル問題ハ、例ノ飼料問題ニテ、是ハ牧野法以上ニ必要ナ大問題ト存ジマス、糠及ビ糠ノ千五百俵毎年本村ニ購入シテ居リマシタ所、産業組合ヲ通ジテ、昨年十月以來今日マデニ漸ク十五俵ノ配給ヲ受ケタニ過ギマセヌ、是ガ爲高價ナ麥ヲ購入シテ、漸ク其ノ不足ヲ補フコトニ致シテ居リマス、併シ是モ制限ガアリマスノデ、ボツ／＼米ヤ糠ヲ煮テ食ベサセテ居ルヤウナ次第デアリマス、是ハ已ムヲ得ナイ現象ト存ジマス、大麥ハ皮附一貫目六十七錢、糠ハ正味一貫目七十五錢、其ノ差ハ僅ニ八九錢、豆粕百斤入十六圓九十錢ナリシモノハ恐ラク二十圓以上、是モ手ニ入りマセヌ、糠五圓六十錢、大阪ニテ時價九圓乃至十圓、是モ殆ド手ニ入りマセヌ、糠一俵四圓ノモノガ、五圓乃至七圓デモ手ニ入ルコトガ難カシク、米不足ヲ憂ヘ、成ベク出荷シテ、此ノ非常時ニ農業報國ノ誠ヲ現ハシタイト考ヘテ居ル醇朴ナル農民達ガ、心ノ中ニ泣キナガラ、糠ヲ瘠セテ行ク所ノ家畜ニ、少シヅク食ベサセテ居ルヤウナ實情デス、配給機構ハ整備シマシタガ、物ハ配給サレマセヌ、統制價格ニ依リ農産物、米及ビ炭ハ賣ツテ居リマスガ、併シ肥料モ、飼料モ手ニ入ラズ、而モ少量ノ飼料モ統制價格デハ手ニ入りマセヌ、此ノ現實ヲ政府ハ如何ニシテ解決シテ呉レルコトデセウ、農相ノ答辯ハ一片ノ三百代言ノ技巧ニ過ギナイ氣ガシマス、岸畜産局長ノ飼料問題ノ答辯ニ、駄畜ヲ整理セヨト、駄畜ノ意義範圍甚ダ不明瞭、善意ニ解釋シテ、老衰シタモノカ、或ハ疫病ニ因リ不生産ノモノノ意味ナラントシテモ、是等モ十分ナ飼料ヲ供スルコトニ依リ、立派ナ

肉畜、軍需ニ應ズル至寶優畜モ出來、府セレバ又駄畜ニナリマス、飼料難來レバ駄畜ノ淘汰洩ニ名論、併シ農民心理カラ言ヘバ、家畜モ亦家族ノ一因子、之ニ對スル感情ハ人間ニ對スルコト殆ド同ジモノデアリ、米不足ニ對シテ駄人ヲ整理シテハト岸氏ニ申上ガタイ位デアリマス」斯ウ云フヤウニ農民ガ申シテ來テ居リマスガ、私ハ以上ノ言葉ヲヤウニ、駄畜デモ飼ツテ居リマスナラバ、是ハ家族ノ一員デアリマシテ、家ノ出入リニ馬ガ鼻ヲ鳴ラシテ呉レル時ノ喜ビヲ知ラズシテ、ドウシテ馬ヲ飼フコトガ出來マセウ（拍手）飼料ガナケレバ麥デモ糠デモヤラザルヲ得マセヌ、飼料統制法ガ制定サレ、國策會社ヲ飼料配給株式會社ノ出來マシタ際、飼料ニ對シテ絕對迷惑ヲ掛ケルヤウナコトハアリマセヌト言明シタルニ、今日ノ實情ハ一體ドウシタコトデアリマセウ（拍手）政府ノ諸公ハ何ノ額ヲ以テ見エルコトガ出來マスカ、飼料政策ノ失敗不徹底ノ結果デアルト考ヘルノデアリマスルガ、之ニ對シテ政府ノ所見如何デアリマスルガ、一昨日ノ議會ニ農林大臣ハ、肥料ニ對シテハ八月カラモウ心配スルコトハナイ、斯ウ云フコトヲ此ノ壇上カラ申サレ、又ソレガ新聞ニ記載サレテ、多クノ農民ニ安心ヲ與ヘタト思ヒマスガ、今飼料地獄ニ惱ンデ居リマス所ノ多クノ畜産家達ニ對シテ、モウ一度此ノ演壇ノ上カラ、何時ニナツタナラバ飼料ニ對シテハ心配ヲ掛ケルコトハナイト、斯ウ云フコトヲ一ツ明瞭ニ御答辯ヲ願ヒタイト思フノデアリマス（拍手）然レニ最近又飼料配給株式會社ガアリマスルニ拘リマセズ、飼料製品ノ配給ヲ目的トスル所ノ、保稅工場飼料主體トスル共販會社ノ設立、又大家畜ノ飼料配給ヲ目的トスル全國飼料配給聯合會ノ設立計畫、其ノ他内地總ノ共販會社、及ビ大連混合ノ共販會社ノ設立計畫等ト、屋上屋ヲ架シ、飼料ノ配給ガ益々混亂ニ陥ラントシテ居ルノデアリマス、政府ハ此ノ際一元ノ統制ト配給ノ圓滑ヲ期セラレタイノデアリマスガ、之ニ對スル政府ノ御所見ヲ御伺シタイノデアリマス（拍手）政府ハ糞ニ議會ニ於キマシテ、現下ノ飼料事情ニ鑑ミ、必要ナル數量ヲ確保スル爲、日滿經濟一體ノ方針ニ則リ、其ノ資源ヲ日滿兩國内ニ於テ自給スル方針ヲ立テ、以テ飼料ノ需給ノ圓滑ト價格ノ公正ヲ期スルト公約サレマシタガ、事實ハ正レニ相反シテ居ル、如何ナル理由ニ依ルカ、本年滿洲大豆及ビ雜穀ノ出廻ノ惡イノハ、滿洲特產專管公社ガ出來テ、ソレ等ノ公定價格ヲ官條獨善的ニ安ク決定シタ結果デナリカ、滿洲ハ公社ニ賣ラズニ、密ニ氷結シタル黑龍江ヲ越エ、露領ニ密賣シテ居ル者モアルト云フヤウナ話モ聞イテ居ルガ、サウ云フコトガアルカ、此ノ頃專管公社ハ餘リ品物ノ出廻ノ惡イニ鑑ミテ、價格ノ引上ヲシテ居ルヤウデアリマスルガ、是ハ又高クナレバ、又高クナルデアラウト云フ農民心理ガ逆ニ働イテ、却テ出廻ヲ惡クスルノデナイカ、是等ノ點ニ關シマシテ、對滿事務局ノオ方ガ居リマスルナラバ、御意見ヲ承リタイト考ヘルノデアリマス、尙ホ飼料不足ヲ補フ一ツノ方法トシテ、山林ノ種實デアリマスル所ノ、櫟、樺、椎、サウシタ山林ノ種實ヲ採收シテ使用スルナラバ、相當ノ數量アリト思フノデアリマスガ、之ニ對シマスル所ノ調査研究ガ出來テ居リマステ置イテハナラナイノデアリマス、ドウシテ見テモ、今日ノヤウナ飼料不足ノ場合ニ今マデ打捨テラレテ居リマシタ所ノ、此ノ山林ノ種實ヲ利用スル所ノ途ヲ講ジナケレバナラナイト考ヘマスルガ、此ノ點ニ付テ所信モ承リタイト考ヘルノデアリマス（拍手）

第三ハ、馬種變更ニ依ル所ノ障礙ニ對シテ、如何ナル緩和方策ヲ執ラレタカト云フコトデアリマス、軍ハ第二次馬政計畫ニ於テ、國防上必要ナル有能馬、特ニ重挽馬ノ充實ヲ目標トシ、又地域的ニ役種別產馬方針ヲ立テ、北海道デハ主ニ重種、他ノ廣範圍ノ地方デハ輕種ヲ飼育シテ來タノデアリマス、然ルニ事變勃發ト共ニ、戰地ニ於ケル貴イ經驗ノ結果、第二次馬政計畫ヲ根本的ニ改革シ、軍ノ必要ナル馬ハ、低身廣軀、四肢強健ニシテ、負擔力、挽曳力、持久力ニ富ミ、中等體尺者ノ使用ニ便ニシテ、飼用管理ニ容易ナル馬ヲ標準トシ、挽型馬ヲ生産セルヲ以テ第一義トシ、乘型馬ハ平時ニ於ケル軍ノ需要ヲ充スル目的トシ、之ヲ制限スルト聲明スルニ至リマシタノデ、軍馬ニ適當ナル種類ハ、乘、挽型共ニ中間種タル「アンダロノルマン」種ガ指定サレルニ至ツタノデアリマス、ソコ從來重種或ハ輕重ヲ飼養シテ來タ多クノ地方ハ、此ノ計畫變更ノ爲、幾多ノ犧牲ト損失ヲ蒙ツテ居ルノデアリマス、產馬家ハ今日マデモ非常ニ努力シテ、軍ノ要求ニ應ジ改良シタトキ變更サレル、常ニ其ノ後ヲ追ツ掛廻ツテ居ルヤウナ次第デアリマス、昨年軍馬保護法制定ノ際、斯ル障礙ハ必ズ緩和ノ方針ヲ執ルト仰セニナリマシタガ、今日マデニ如何ナル方策ヲ執ラレマシタカ、若シ今日マデ方策ハ執ラレテ居ラナイト致シマスナラバ、今後ニ於キマシテ如何ナル方策ヲ執ルカ、此ノ際多クノ產馬家ノ爲ニ御意見ヲ承リタイト思フノデアリマス

第四ハ、本法案ハ大牧場重點主義デ、小牧場ハ指導外ニ置カレレバ處ハナイカト云フ點デアリマス（拍手）昭和十一年我國農家ノ馬飼養頭數別調査ヲ見マスルニ、一頭ダケ飼養シテ居ルモノハ八四・一%、二頭飼養シテ居ルモノハ一三・七%、五頭以上ハ僅ニ一・〇%デアリマス、ガカラ從來舍飼ノ多イコトハ之ヲ

見テモ察セラレルノデアリマスガ、併シ合飼ヲ致シマスルト、四肢ガ弱クナリ、又骨軟症ナドニモ罹リ易イコトハ、既ニ御承知ノ通りデアリマス、軍ノ要求致シマスル所ノ、有能馬ノ資格ト相反スルノデアリマス、故ニ是等ヲ補正スル爲ニ、牧野ニ放シ飼ヒヲ致シマスル必要ガアルノデ、政府モ此ノ法案ヲ提出サレタコトト信ズルノデアリマスガ、又合飼デハ多クノ飼料ト努力ヲ要シマス、今日ノヤウナ飼料不足、努力不足ヲ補フ爲ニモ、放牧ノ必要ヲ痛感スルノデアリマス、所ガ本法案ニ依リマス、牧野特定期限ヲ御設ケニナリマスガ、五十町歩以上ノ牧野ヲ目標トシテ居ラレマスルノデ、大牧野對策デ、ソレ以下ノ小牧野ハ、所謂牧野組合ヲ作ルニシテモ、恩恵ヲ受ケルコトガ少イノデアリカ、否、却テ面倒ダケガ増シ加ハルノデアリカト考ヘテ居ルノデアリマス(拍手)七千五百頭ノ種牡馬ト、百万頭ノ有能馬ヲ保有セントスル大事業デアリマスカラ、大馬産地、大牧野重點主義ヲ執ラレト云フコトモ亦已ムヲ得メセガ、軍馬ノ地域ノ分布調整ノ必要上、又産馬ノ圓滑ヲ期シマスル爲ニ、牧野組合ヲ作り得ナイ小牧野ノ利用モ、亦必要ト考ヘルノデアリマスガ、此ノ點ニ關スル政府ノ御所見ハ如何デアリマスカ

第五ハ、先程上田君モ御尋ニナリマシタガ、國有林野ヲ混牧林野トシテ、或ハ牧野トシテ開放スル考ハナイカト云フ點デアリマス、我國ハ面積狹小デアリマスガ、御承知ノ通り森林地帯ハ二千三百五十五町歩デ總面積ノ五四%ニ當ツテ居リマス、御料林ダケデモ全國ニ百三十八万町歩アリ、其ノ中、青森、岩手、福島ノ三縣ダケニ七十七万三千町歩、約五割ガアルノデアリマス、國有林野ハ七百七十一万町歩、其ノ中東北六縣ニ二百二十三万町歩、約三割保有致シテ居ルノデアリマス、又牧野ハ三百三十五万町

步デ、總面積ノ一〇%アリマス、是等ノ土地ノ中、混牧林野トシテ、又採草地、放牧地トシテ開放スベキ所ハ、多々アラウト信ズルノデアリマス、曩ニ政府ハ森林法改正ノ際、治水及ビ森林政策ニ支障ノナイ限リ、開放スルト云フ御意見デゴザイマシタガ、仄聞スル所ニ依ルト、既ニ内地デ六万町歩、北海道デ二十六万町歩ヲ開放セラレタサウデアリマスガ、是位デハ今次ノ牛馬増産計畫ニハマダノ不足デアルト考ヘルノデアリマス(拍手)此ノ際政府ハ民間未利用地ヲ全部收容シ、牧野化ヲ圖ラレマスルコトハ當然デアリマスガ、ソレト同時ニ國有森野ノ開放モ亦必要デアルト存ズルノデアリマス、政府ハ今後ノ程度マデ開放スル所ノ御積リデアアルカ、御所見ヲ承リタイモデアリマス(拍手)

第六ハ、牧野經營ノ積極的指導ト技術員ニ關スル問題デアリマス、政府ハ本法案要點ノ一ツトシテ、牧野經營ノ積極的指導ヲ掲ゲテ居リマスガ、今日マデ多クノ牧野ガ荒廢ニ瀕シテ居リマスルノハ、經濟的貧困ニ關スル點モゴザイマスガ、又良キ指導者ノ居ラナイ爲デアリマス、折角牧野特定期限ノ制度ガ設ケラレ、五十万町歩ノ牧野ガ出來、又民間未利用地ガドシノ收容サレ、牧野化サレマシテモ、良キ指導者ガ居ラナケレバ、相變ラズ荒廢ニ歸スルノデアリカト考ヘルノデアリマス、ソコデ本法案ニモ牧野組合ヲ作り、技術員ヲ置キヤウニ定メラレテ居ルガ、僅カバカリノ補助金ヲ貰フ位デ置ケルカドウカ、置ケルト致シマシテモ、之ニ應ズルダケノ獸醫ガアリヤ否ヤデアリマス、獸醫養成機關ハ、御承知ノヤウニ官立大學ニ、官立專門學校五、私立專門學校三トナツテ居リヤウデアリマスガ、恐ラク是等ノ卒業生デハ不足デアリマセウ、ソコデ今回獸醫手ノ便法モ考ヘラレテ居ルヤウデアリマスガ、

此ノ法案ニ獸醫手養成モ當分ノ中ト書イテゴザイマスガ、ソレハ事變中ノコトカ、事變後ニ是等ノ獸醫手ノ人達ハ獸醫ニ引上ゲラレルノカドウカ、又會テ獸醫科ヲ設置シテ居タ、甲種農學校中設備ノ立派ナモノガアリマス、例ヘバ私ノ母校デアリマス大阪府立農學校ノ如キ其ノ一ツデアリマスガ、是等ノ學校ヲ利用シテ獸醫養成ヲ向ホ一層多クスルト云フヤウナ考ガアルカドウカ、此ノ點文部大臣ノ御意見ヲ承リタイノデアリマス

第七點ハ、本法案ト食糧増産計畫トノ關係デアリマス、一旦牧野特定期限或ハ牧野ニ準ズルモノト指定致サレマスルナラバ、開墾ガ出來ナクナツテ居リマス、戰時下食糧生産ノ必要ナコトハ申スマデモアリマセス、今後ニ於テモ人口増加ニ伴ヒ、益々増産ヲ圖ラネバナラヌノデアリマス、政府モ本年度ノ豫算ニ於テ、二箇所ノ國營開墾並ニ幾多ノ開墾助成ヲ爲サレテ居リマスガ、牧野地區ノ開墾禁止ト食糧増産ヲ爲ノ開墾事業トノ間ニ、矛盾衝突ハ起ラナイノデアラウカ、此ノ點十分考慮ニ入レテヤツテ居ルカドウカ、御意見ヲ承リタイ、各省各局バラバラノ計畫デアツタリ、其ノ時々ノ重點主義ヲ行ハレテハ、國家百年ノ計ヲ誤ラナイトハ限ラナイノデアリマス(拍手)或ハ牧野ニ指定スル所ハ、主ニ丘陵地帯或ハ傾斜地デアリ、開墾ニ不向ノ所デアルト申サレルカモ知レマセス、併シ最近果木栽培或ハ立體農業ナルモノガ唱道サレテ參リマシタ、ソレハ地中海ノ「コルシカ」島ノ如キ、世界最小ノ面積ヲ以テ、世界最多數ノ人口ヲ養ウテ居リマスガ、山地傾斜面ヲ利用致シマスル立體農業ニ依リマスコトヲ、世界食糧資源論ノ著者デアリマスル所ノ「ラッセル・スミス」ガ申シテ居ルノデアリマス、將來日本モ此ノ點ニ關シテ大イニ研究スル必要ガアルト思フノデアリマスガ、

ソレト牧野設定トノ間ニ矛盾衝突ノナイヤウニ、今カラ考ヘテ置カナケレバナラナイガ、其ノ邊ニ對スル所ノ政府ノ御所見ハ如何デアリマスカ

私ハ最後ニ畜種別牧野ヲ造ル考ハナイカト云フコトヲ御尋ヲ致シテ見タイト思ヒマス、本法ニ依リマス、牧野組合ハ牛馬ノ受託放牧ヲスルト云フヤウニ規定サレテ居リマスガ、混牧シテ居リマス所ノ地方ノ實情ヲ伺ヒマスルト、牛馬ヲ一緒ニ放牧スルコトヲ餘リ喜ンデハ居ラナイヤウデアリマス(拍手)ソレハ牛ハ牧野ヲ馬ヨリモ荒スト云フヤウナ點カラ致シマシテ、馬ヲ飼フ所ノ者ガ牛ヲ一緒ニ放スコトヲ好ンデ居リマセス、ソコデ法文ニハ牛馬ノ受託共ニ受ケルヤウニナツテ居リマスガ、是ハ牧野組合デ別々ニスルノデアアルカ、或ハサウデナシニ混合シテ之ヲ放牧サスノデアアルカ、ソレ等ノ點ニ付テモ御伺スルコトガ出來マシナラバ幸ヒデアリマス、尙ホ其ノ外色々ノ點ガゴザイマスガ、細カイ點ハ委員會デ御尋致シタイト思ヒマスガ故ニ、私ノ質問ハ之ヲ以テ終ルコトニ致シマス(拍手)

(國務大臣島田俊雄君登壇) 杉山君ノ御質問ハ極メテ重要ナル點ニ觸レテ居リ、同時ニ極メテ多岐ニ互ツテ居リマス、又其ノ質問ノ内容ハ、相當技術的ノ問題ニ觸レテ居リマスカラシテ、私ハ大體ノ點ニ付テ一應ノ御答ヲ致シマシテ、詳細ノ事柄ニ付テハ、委員會ニ於テ御答ヲスルコトニ致シタイト考ヘマスカラ、此ノ點ヲ豫メ御諒承置キヲヒ願タイ

只今御質問中飼料ノ點ニ付キマシテ、地方ヨリ送ツタ農民ノ手紙ヲ御朗讀ニナリマシテ、御質問ニナリマシタ點ニ付キマシテハ、是ハ他ノ機會ニ於キマシテモ屢、申上ゲテ居ル如ク、今日ノ我國ノ事情ト致シマシテ、飼料、肥料、食糧ト云フモノガ、關聯

シタ離ルベカラザル關係ニアルト云フコトハ、是ハ政府ト致シマシテモ、深ク其ノ點ヲ認識致シテ居ル所デアリマス、而シテ此ノ飼料ノ點ニ付キマシテ、殊ニ現今是ノ供給ノ點ニ於テ、甚ダ窮屈ナ状態ニナツテ居ル、ソレガ爲ニ家畜ノ數ヲ減少スルト云フヤウナ、遺憾ナル事實ガ現ハレテ居ルト云フコトヲ、憂慮スルト云フ點ニ於キマシテハ、質問者ト政府トハ全ク感ヲ同ジテ致シテ居ルノデアリマシテ、此ノ點ニ付キマシテハ懸命ノ努力ヲシテ、此ノ飼料ノ確保ト云フコトニ付テヤツテ居ルノデアリマス、其ノ事情ニ付テ詳細ナ事柄ニ付キマシテハ、或ハ杉山君御自身モ亦十分御承知ノコトト思フノデアリマスガ、即チ政府ハ御質問ノ趣意ニ鑑ミ、憂ヲ同ジクシテ、此ノ飼料ノ確保ト云フコトニ付テ、努力ヲ致シテ居ルト云フコトヲ申上ゲテ置キマス、申スマデモナク此ノ粗飼料ニ付キマシテハ、是ハ内地ニ於テ相當ニ供給ガアルノデアリマスアレドモ、濃厚飼料ニ付キマシテハ、遺憾ナガラ内地ノ生産ヲ以テ、此ノ需要ヲ充スコトガ十分出來ナイ爲ニ、外國ヨリシテ輸入ヲ致サナレバナラヌ部分ガ、相當ニアルノデアリマス、而シテ圓「ブロック」關係カラ、入り得ル所ノモノニ付キマシテモ、昨年ノ滿洲ニ於ケル旱害等ノ爲ニ、相當窮屈ニナツテ居ル、而シテ之ヲ第三國カラ輸入スルト云フコトニ付キマシテハ、是ハ所謂物動ノ計畫カラ致シマシテ、正貨ヲ外ニ拂ツテ行カナレバナラヌト云フ關係ガアリマシテ、之ニ付キマシテモ出來ルダケノ努力ヲ致シマシテ、輸入ニ俟テ得ルモノニ付キマシテハ、之ヲ輸入ニ仰イデ居ル次第デアリマスアレドモ、是等

ノ點ニ付キマシテ、未ダ十分畜産家ニ對シテ安心ヲ與ヘルト云フコトノ確信ヲ以テ、御答ラスルノ程度ニ達シテ居ラスコトヲ、甚ダ遺憾ト致シテ居リマスアレドモ、出來得ル限りノ努力ヲ致シマシテ、來年度ノ物動ノ計畫ノ上ニ於キマシテ、是等ノ點ニ付テ遺憾ナキヲ期スルト云フ意味ヲ以テ、努力ヲシテ居ルト云フコトヲ申上ゲテ置ク次第デアリマス、尙ホ之ニ關聯致シマシテ、飼料會社ノコトニ付テ、色々御質問ノ意味ヲ以テ御話ガゴザイマシタガ、現在ノ飼料ノ事情カラ考ヘマシテ、此ノ飼料ノ配給ノ機關ニ付テ、尙ホ不十分ナ點ガアルト云フコトハ、是ハ御質問ノ通りデアアル、隨テ是等ノ點ニ付キマシテハ、飼料配給ノ實情ニ鑑ミマシテ、此ノ飼料配給ノ機關ニ付キマシテモ、之ヲ強化充實スルノ點ニ付キマシテ、十分政府トシテハ考究ヲ致シタイ、サウシテ成ベク速ニ此ノ實現ノ方途ニ付テ考ヘテ見タイ、斯様ニ考ヘテ居ル次第デアリマス

尙ホ軍馬ノコトニ付キマシテ、馬政計畫ノ新規ニ更新セラレタ結果トシテ、馬ノ種類ガ變ツタ、斯ウ云フ點ニ付テ、保護ノ點カラ御質問ガアリマシタガ、是等ノ事柄ニ付キマシテハ、是ハ技術ノ専門家ノ部分ニ屬スルコトデアリマスガ、政府ト致シマシテハ、新馬政計畫ノ下ニ於テ蒙ルベキ色々ナ事情ニ付キマシテハ、之ヲ出來ルダケ緩和スルト云フ途ニ付テ、考究シテ居ルト云フ點ガケヲ申上ゲテ置キマス、尙ホ此ノ點ニ付キマシテノ詳細ナル事柄ニ付テハ、委員會ニ於テ十分ニ申上ゲテ見タイと思ヒマス

ソレカラ小牧野ノコトニ付テ、是ノ必要云々ノコトニ付キマシテハ、是ハ大體牧野ト致シマシテハ、相當纏ツタ面積ノモノヲ理想トシ、之ヲ必要トハ致ス次第デアリマスルガ、併シナガラ地方ノ事情ニ鑑ミマシテ、小ナル牧野ト雖モ、之ニ對シテ相當ナ考ヲ以テ、之ヲ必要ナル場合ニハ、特定地トシテ指定スルト云フヤウナコトニ付テハ、決シテ政府ハ之ヲシナイト云フ方針デハナイノデアリマシテ、ソレニ付テ相當特定地トシテ指定ヲ致シマシテ、相當ナ保護ヲスルト云フコトニ付テハ、十分考ヲ致シタイト考ヘテ居リマス

尙ホ國有林野ノ開放ニ付キマシテ、續々御意見ガアツタノデアリマスガ、國有林野ニ付テ現在政府ガ考ヘテ居ル程度デハ少イ、斯ウ云フ事柄ニ付キマシテハ、或ハ左様ナ御感ジガアルカモ知レマセヌガ、之ニ付キマシテハ尙ホ十分ニ政府トシテハ檢討ヲ加ヘマシテ、出來得ル限り廣イ面積ヲ、所謂牧野ニ對シテ開放スルト云フ考ヲ以テ檢討ヲ加ヘテ見タイと思フノデアリマスガ、現在ハ只今御話ノアリマシタ程度ノモノニ付テ、研究ヲシテ居ルト云フ次第デアリマス、而シテ此ノ場合ニ於テ、之ニ關聯シテ混牧ノコトニ付テ御話ガアリマシタガ、御承知ノヤウニ、又御話ノヤウニ、混牧ト云フコトハ、實行ノ上ニハ好マナイト云フコトハ、實情トシテアリマスアレドモ、併シナガラ政府ト致シマシテハ、此ノ法案ヲ實施スルト共ニ、混牧ノコトニ付テモ出來ルダケ、許ス限りノ之ヲ認メタル、斯ウ云フヤウナ考ヲ持ツテ居ルト云フコトヲ申上ゲテ置キマス

尙ホ牧野ト開墾、食糧ノ問題ニ關聯シテノ御話デアリマシタガ、是ハ十分ニ調和ヲ圖リマシテ、牧野ノ適地ト開墾適地トガ競合シテ居ルト云フヤウナ場合ニ付キマシテハ、決シテ各局割據ノヤウナコトニ陥ラナイヤウニ、開墾トノ間ニ調和ヲ取ツテ、牧野ト農耕ノ爲ニスル所ノ開墾トノ間ニ矛盾ヲシタリ、或ハ衝突ノアルヤウナコトナキヤウニ、調和ヲ圖ルト云フ點ニ付キマシテハ、十分遺憾ナキヤウニ致シタイト考ヘテ居リマス

尙ホ技術員ニ關係シテ、獸醫師ノコトニ付テノ御話ガアツタヤウデアリマスガ、是ハ此ノ次ニ上程サレマスル獸醫師等ノコトニ付テ、法律ヲ提案スルコトニナツテ居リマスルカラシテ、其ノ點ニ付テ御考慮ヲ願ヒ、獸醫師ノ問題ニ付キマシテハ、次ニ提案ヲ爲スベキ法案ニ依ツテ解決ヲシ、當面ノ急ニ應ジタイト考ヘテ居リマス、尙ホ多數ノ點ニ付テ御質問ガアツタヤウデアリマスアレドモ、是ハ十分ニ調ベマシテ、委員會ノ席上ニ於テ詳細ニ御答ヲシタイと思ヒマス(拍手)

(國務大臣畑俊六君登壇)
○國務大臣(畑俊六君) 對滿事務局總裁トシテ御答ヲ致シマス、滿洲國ニ於キマスル本年度ノ雜穀ノ收穫ハ減收デアリマシタ爲ニ、隨テ出廻ガ不十分デアリマシテ、内地ヘノ供給ハ十分デアリマセヌデシタコトハ、事實其ノ通りデアリマス、洵ニ是ハ遺憾ニ存ズル次第デアリマス、併シ其ノ後滿洲國側ト密接ニ連絡シ、又ソレレノ方面モ督勵ヲ致シマシタ結果、最近漸ク順調ニ向ツテ居ルヤウデアリマスルガ、併シ今後トモ尙ホ十分ニ注意ヲ致シマシテ、需要ニ應ズルヤウニ努力ヲ致シタイト考ヘテ居リマス

先程專管公社ノ建値ノ件ニ付テ御質問ガ

合シテ居ルト云フヤウナ場合ニ付キマシテハ、決シテ各局割據ノヤウナコトニ陥ラナイヤウニ、開墾トノ間ニ調和ヲ取ツテ、牧野ト農耕ノ爲ニスル所ノ開墾トノ間ニ矛盾ヲシタリ、或ハ衝突ノアルヤウナコトナキヤウニ、調和ヲ圖ルト云フ點ニ付キマシテハ、十分遺憾ナキヤウニ致シタイト考ヘテ居リマス

アリマシタガ、是ハ値上ヲシタト云フコト
ハ同ツテ居リマスガ、細部ノ點ニ付キマシ
テハ、手許ニ資料ヲ持ツテ居リマセヌカ
ラ、是ハ別ノ機會ニ政府委員カラ説明ヲサ
セルヤウニ致シタイト存ジマス

次ニ軍馬ノ馬産計畫ノコトニ付テ御質問
ガアリマシタガ、軍馬ハ數次ノ戰役並ニ多
年ノ經驗ニ鑑ミマシテ、軍ハ持久力ノアル、
所謂骨量ノアル中格馬ヲ必要トスルコトニ
落著イタノデアリマス、今後軍ト致シマシ
テハ此ノ方針ヲ持續シテ參リタイト思フノ
デアリマスガ、何ニ致セ馬産計畫ト云フモ
ノハ、大變長イ年數ヲ要スルモノデアリマ
スカラ、漸ヲ追ヒマシテ、順次此ノ方針ニ
依ツテ指導シテ參リタイト考ヘテ居リマス(拍
手)

〔政府委員子爵舟橋清賢君登壇〕

○政府委員(子爵舟橋清賢君) 只今杉山君
ノ御質問中、文部當局關係ノ御質問ガゴザ
イマシタノデ御答申上ゲマス、御質問ノ要
旨ハ、獸醫技術員ノ不足ヲ補フ目的カラ、
例ヘバ大阪農業學校ノ如キヲ利用スル考ハ
ナイカドウカト云フ御質問デアツタト拜承
致シマス、大阪農業學校ハ、一時獸醫科ノ
廢止ガアリマシタ次第デアリマスルガ、昨
年二部ヲ設置致シマシテ、獸醫技術員ノ養
成ニ努力致シテ居リマス、尙ホ全般的ノ問
題ト致シマシテハ、時局ノ要望ニ副フ目的
カラ、一般的ノ施設ト致シマシテ、農業學
校獸醫技術員ノ養成施設トシテ、只今具體
案ノ作成ヲ致シマシタ上デ、關係當局ト折
衝スル豫定デアリマス

○副議長(田子「民君」) 是ニテ質疑ハ終了
致シマシタ、本案ノ審査ヲ付託スベキ委員
ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○服部崎市君 本案ハ政府提出、昭和十二
年法律第九十號中改正法律案委員ニ併セ付
託セラレシコトヲ望ミマス

○副議長(田子「民君」) 服部君ノ動議ニ御
異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(田子「民君」) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程
第六、輸出毛織物取締法案ノ第一讀會ヲ開
キマス——加藤商工政務次官

第六 輸出毛織物取締法案(政府提出、
貴族院送付) 第一讀會

輸出毛織物取締法案

輸出毛織物取締法案

第一條 輸出毛織物ハ命令ノ定ムル所ニ
依リ輸出毛織物検査所ノ検査ニ合格シ
タルモノニ非ザレバ販賣ノ目的ヲ以テ
之ヲ輸出スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事
情ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケタル場
合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二條 販賣ノ目的ヲ以テ輸出毛織物ノ
輸出ヲ爲サントスル者ハ命令ノ定ムル
所ニ依リ其ノ輸出毛織物ガ前條ノ規定
ニ從ヒテ輸出セララルモノナルコトニ
付行政官廳ノ檢閲ヲ受ケベシ

第三條 主務大臣輸出毛織物ノ輸出ニ關
シ取締上必要アリト認ムルトキハ當該
官吏ヲシテ保税地域内ニ於テ又ハ店
舖、倉庫、工場其ノ他ノ場所ニ臨檢シ
物品、帳簿其ノ他ノ物件ヲ検査セシム
ルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當該官吏前二條ノ規
定ニ違反シテ輸出毛織物ノ輸出ヲ爲シ
又ハ輸出ヲ爲サントシタル者アリト認

ムルトキハ被疑者若ハ參考人ヲ尋問シ
又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スベキ物件ヲ搜
索シ若ハ之ガ差押ヲ爲スコトヲ得
臨檢、尋問、搜索及差押ニ關シテハ間
接國稅犯則者處分法ヲ準用ス

第四條 輸出毛織物ノ検査ニ關シ之ニ附
シタル輸出毛織物検査所ノ印章又ハ記
號ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ抹消シ、
除却シ又ハ隱蔽スルコトヲ得ズ
前項ノ印章又ハ記號ヲ抹消シ、除却シ
又ハ隱蔽シタル輸出毛織物ハ之ヲ輸出
スルコトヲ得ズ

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千
圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第一條、第二條又ハ前條第二項ノ
規定ニ違反シテ輸出毛織物ノ輸出ヲ
爲シ又ハ輸出ヲ爲サントシタル者
二 前條第一項ノ規定ニ違反シタル者
前項第一號ノ場合ニ於テハ犯人ノ所有
シ又ハ所持スル輸出毛織物ヲ沒收スル
コトヲ得若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收
スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追
徵スルコトヲ得

第六條 正當ノ理由ナクシテ第三條ノ規
定ニ依リ當該官吏ノ臨檢、検査、搜索
若ハ差押ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ
其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽
ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰
金ニ處ス

第七條 輸出毛織物ニ關スル業ヲ爲ス者
ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、
雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ
第五條第一項第一號ノ違反行爲ヲ爲シ
タルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故
ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第八條 第五條第一項第一號ノ罰則ハ其
ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其
ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、
未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ
法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關
シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年
者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前ニ輸出毛織物ノ輸出ニ付關稅
法第三十一條ノ免許ヲ受ケタル者ハ第一
條及第二條ノ規定ニ拘ラズ其ノ輸出毛織
物ヲ輸出スルコトヲ得

前項ノ輸出毛織物ヲ除クノ外本法施行前
ニ製織シタル輸出毛織物ハ本法施行ノ日
ヨリ一月以内ニ輸出毛織物検査所ノ認定
ヲ受ケ本法施行ノ日ヨリ六月間第一條及
第二條ノ規定ニ拘ラズ之ヲ輸出スルコト
ヲ得

〔政府委員加藤鐵五郎君登壇〕
○政府委員(加藤鐵五郎君) 只今議題トナ
リマシタ輸出毛織物取締法案ニ付キマシテ、
提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス
本邦毛織物ハ近年異常ナル輸出ノ増進ヲ
示シマシテ、輸出品中特ニ將來性ニ富ム商
品デアリマスルガ、本品ハ大部分中小工業
者ノ生産ニ係リマスル關係上、動トモスレ
バ粗製濫造ニ陥リ、延イテハ粗惡品ガ輸出セ
ラレマシテ、品質ニ對スル海外ヨリノ苦情ガ
少クナイノデアリマス、仍テ政府ハ國營ニ
依ル精密嚴正ナル輸出検査ヲ實施シマス

共ニ、其ノ輸出ノ取締ヲ行ヒ、粗悪品ノ輸出ヲ防止致シマシテ、海外市場ニ於ケル聲價ヲ維持シ、進デ品質ノ改善向上、並ニ製品ノ恒久化ヲ促シ、以テ本品ノ輸出振興ヲ圖リ、輸出貿易ノ健全ナル發展ニ資セントスルモノデアリマス、以上ノ如キ趣旨ヲ以テマシテ本案ヲ提出シタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上御協賛アラントヲ望ミマス

○副議長(田子一民君) 質疑ノ通告ガアリマス、順次之ヲ許シマス——渡邊玉三郎君

(渡邊玉三郎君登壇)

○渡邊玉三郎君 只今上程サレマシタル輸出毛織物取締法案ニ付キマシテ、若干ノ質疑ヲ試ミントスルモノデアリマス、歷代ノ政府ガ輸出振興ニ力ヲ注ガレマスコトハ、是ハ我國ノ國情カラ當然ノコトデアアルデアリマス、我國ノ毛織物ハ、大正年間ハ全ク輸入ニ依存シテ居ツタノデアリマスケレドモ、昭和ノ初メ頃カラ國產獎勵、輸出振興ノ運動ガ盛ニナリマシテカラ、順次發達シタノデアリマス、會テ昭和二年デアリマシタカ、長多クモ 大元帥陛下ガ陸軍大演習ノ當時、名古屋ニ御駐蹕遊バシマシタ當時、愛知縣ノ毛織物ヲ種々御買上ヲ賜ツタノデアリマス、漏レ承ル所ニ依リマスルト、當時ノ閣僚諸公ハ、其ノ御買上ニナリマシタル服地ヲ賜ハリマシテ、非常ニ感激セラレタコトヲ聞イテ居リマス、所謂毛織物ノ發達ハ、誠ニ畏多イ御話デアリマスケレドモ、大御心ニ依ルコトト思ヒマシテ、唯々感激シ、サウシテ業者ハ研鑽努力ヲ續ケテ、今日ノ發達ヲ遂ゲタノデアリマス、毛織物ハ數年前マデハ全ク輸入品デアリマシタノガ、輒近之ヲ防遏致シマシテ、此ノ時局下ニ於キマシテ數千萬圓ノ輸出ヲ見ルニ至リマ

シタコトハ、洵ニ欣快ノ至リデアリマス、以下數項ニ付キマシテ質問ヲ致サウトスル者デアリマス

第一問ト致シマシテハ「リンク」制度ノ改善ノ要アリト思フノデアリマス、輸出品ニ對シマシテハ、或ハ綿ノ個人「リンク」、或ハ毛織物ノ團體「リンク」制、種々ナル「リンク」制ヲ布カレテ居ルノデアリマスケレドモ、今日現在ノ實情トハ全ク即シテ居ナイ、殊ニ毛織物ノ「リンク」制度ニ於キマシテハ、數量「リンク」デアリマスカラ、之ニ金額ト數量トヲ併用シタル「リンク」制ヲ布ク必要ガアリト信ズルノデアリマス、所謂數量「リンク」デアリマスカラ、數量ヲ多ク輸出スレバ宜イノデアアル、斯ウ云フ所ニ現行法ノ缺點ガアルト思フノデアリマス、サウシテ「リンク」ノ期間ガ或ル程度少イノデアリマスカラ、其ノ間ニ「リンク」スル必要ガアル、隨テ半製品ヲ輸出スルコトヲ好ムコトニナル、即チ現在ノ「リンク」制ニ於キマシテハ、半製品獎勵ノ「リンク」制度デアアルデアリマス、完成品ノ輸出ハ、生産工程ニ日數ヲ要シ極メテ不利デアアルノデアリマス、又一面カラ言ヘバ、物ノ輸出ノ「リンク」デアリマスカラ、只今政府御説明ノ所謂優良ナルモノノ輸出ヲ却テ阻碍スルノデアリマス、物ノ量ヲ輸出スレバ宜イノデアリマスカラ、數量本位デ優良品ガ出ナイ虞ガナイドハ言ヘナイノデアリマス、又現在毛織物ノ輸出ノ實情カラ申シマスケレバ、現ニ海外ヨリハ隨分注文ガアル、併シ原料ノ毛ガ「リンク」制度ノ缺點カラ、毛絲紡績ガ中小工業ヘ賣ラナイ、手ニ入ラナイ、原料ノ毛絲ノ入手ハ極メテ困難ナル狀態デアアル、ソレハドウ云フ譯デアアルカト申シマスケレバ、國內

ニ於テ六〇、雙絲ノ毛絲ガ三圓ニ公定サレテ居リマス、而シテ之ヲ毛絲デ其ノ儘輸出スレバ、一割乃至二割五分高ク賣レマス、國內ヨリハ輸出ノ方ガ高イノデアリマス、更ニ織物ニシテ輸出スレバ、其ノ原絲ノ代價ハ四圓以上ニ相當スル採算ヲ以テ續々注文ガアルノデアリマス、併シナガラ此ノ採算ノ採レル方ニハ注文ガアツテモ毛絲ヲ賣ラナイ、道理ニ反スルノハ何ノ理由カト申シマスケレバ、早く「リンク」セネバナラス、期限ノ關係ニ依ルノデアリマス、又現在ノ「リンク」制度ト致シマシテハ、其ノ期限ノアル爲ニ、期限經過ノ時ニハ、商工省カラ非常ナ御叱リヲ受ケル、其ノ後ハ原料ヲ配給セナイ、毛絲紡績ガ操業困難ニナル罰則ガアリマスカラ、其ノ輸出證明券ハ非常ナ高價ナ「プレミアム」ガ付イテ居リマス、其ノ「プレミアム」ノ價格ハ時々變リマスケレドモ、原毛ノ代價以上ノ「プレミアム」ガ附クト云フ不合理ガアルノデアリマス、「プレミアム」ノ値段、詰リ輸出證明券ニハ物價統制令ヲ適用シナイノデアリマス、取締ガナインデアリマスカラ、是ハ其ノ期間ガ來ル度ニ、其會社等ガ買ヒアセル、値ガ上ツテ來ル、斯ウ云フコトガ洵ニ種々ナル影響トナリ、輸出ヲ阻碍スルノデアリマス、隨テ今私ガ問ハントスル所ハ、毛織物ノ「リンク」制ヲ改正スベシト思フノデアリマスケレドモ、總テ纖維ノ輸出ニ對スル「リンク」制ハ御改正ヲ行フ必要ガアル、棉ノ個人「リンク」制モ、中小工業ノ責任ニ於テモ出來ルヤウニセラレタイト思フノデアリマス、商工當局ノ御所見ハ如何デアリマセウカ御尋致シマス

第二問、輸出ノ振興ニ付テ、國內生産及

ビ物價問題ヲ如何ニ考慮サレテ居ルカ、斯ウ云フ問題デアリマス、民需ノ節約ハ勿論デアリマスガ、國內ヲ考ヘザルニ於テハ輸出ト云フ花ハ咲カスノデアリマス、民需ト云フ畑ニ、最小限度ノ肥料ヲ與ヘナケレバ、輸出ト云フ花ニ實ハ結バナノデアリマス、即チ民需ニモ研究ト努力ヲ認メル方法ヲ考ヘテハ如何、次ニ九・一八ノ「ストップ」令デ、輸出品ノ工賃ノ如キモノヲ抑制シテ居ル、即チ輸出毛織物生産業者ハ、只今政府ノ説明モアツタ通りニ、毛織物ニ於キマシテハ中小工業ガ多イノデアリマス、隨テ大工場ノ工賃ヲ以テ生産スルモノガ隨分アル、併シナガラ其ノ工賃ナルモノヲ換言スレバ請負デアアル、之ヲ九・一八ノ賃金統制デ抑ヘテシマツテ居ル、併シナガラ現在ハ輸出ハ盛ンデアアル、採算ハ引合フ、毛絲ヲ渡シ毛織物ヲ引取ル、之ヲ工賃利益ト通稱スルノデアアルガ、之ヲ抑ヘルト云フ不合理ヲ生ズル、昨年ノ平沼內閣時代マデハ、輸出ハ所謂民需ノ「サービス」的犧牲ヲ以テ輸出致シテ居ツタノデアリマス、國際物價ノ情勢ガ今ハ一變シテ、國內ヨリ輸出ガ高ク取引サレマス今日ニ於キマシテハ、我國ノ物價ヨリ外貨ヲ獲得スル中小工業ノ生産ニ要スル工賃ヲ抑ヘルコトガ不合理デアアル、所謂輸出ヲ阻碍シ且ツ外貨ヲ遠慮スルノデアアル、速ニ是正サレタキヲ望ムノデアリマス、次ニ輸出ハ豫メ計畫セザルモノ、即チ手續キシテ輸出品ヲ生産セザルモノハ、毛織物トナツテカラ輸出シヨウト致シマシテモ、國內ノ物價統制デ生産者ハ抑制サレ、輸出商ハ統制サレテ居ナイノデアリマスカラ、生産者ハ輸出商ガ如何ニ高ク賣リマシテモ、如何ニ買ハウト致シマシテモ、生産者ハ國

内物價ノ公定價格ヨリ賣ルコト出ルナシ、隨テ是ガ政府ノ只今説明サレマシタル良品ヲ輸出スル爲ニ、本法案ヲ提出シタルト云フコトニ付テ大變難關ヲスルデハナシカ、如何ニ品質ガ良クテモ、技術ヲ加ヘタ毛織物ガ第三國ニ高ク賣レテモ、生産者ハ如何ニ努力シテモ、販賣價格ト云フモノハ國內價格ニ依ツテ抑ヘラレルト云フコトハ、所謂輸出ノ不振興デアルト信ズルノデアリマス、又規格品以外ノ生産ヲ國內デ禁止スルコトハ、一ツノ手段デアリマシテ、吾々ハ肯定致シマス、併シナガラ政府ガ規格ノ絲ヲ作り、統制スル以前ニアツタモノヲ政府ガ配給シ、其ノ絲デ作ツテ、規定ノ期間内ニ作り上ゲマシタル其ノ製品、其ノ優良品ヲ、規格ヲ制定サレマシタル現在ト致シマシテハ、ソレヲ當分ノヲ認メルガ、三月二十五日ヨリ格外品トシテ懲罰ノニ安ク査定スル、斯ウ云フヤウナ暴舉ヲ現在セントシテ居リマス、斯ノ如キ適正物價ガアルカ、何故ニ生産者ノミ期限ヲ附スルカ、之ニ付テハ當然商工當局ハ、過去ニ出來テ居ルモノニ付テハ、之ヲ認ムルコトガ適當デアルト思フノデアリマス、此ノ第二問ノ諸點ニ付キマシテ、明快ナル當局ノ御答辯ヲ要求スルノデアリマス

第三ハ、軍需及ビ輸出品ノ生産、斯ウ云フ生産ニ對シマシテハ、毛織物ニハ封緘規則ガアリマスガ、之ヲ改正スベキデアルト思フノデアリマス、毛織物ガ民需ノミナラズ國防上必要ナルコトハ申スマデモアリマセス、此ノ軍需ノ註文、或ハ輸出ノ註文ガアリマシテモ、其ノ物ヲ製造スル時ニハ、織機ガ封緘サレテ居ルノヲ解除ノ願出ヲシナケレバナラナイ、許可ヲ得ルコトニナツテ居ルノデアリマス、是ハ前々内閣時代ニ、生産調整ノ爲ニ封緘サレタノデアリマスカラ、當時トシテハ已ムヲ得ナイト思ヒマスケレドモ、今日ノ現狀、即チ絲ガ嚴正ナル配給ヲサレテ居リマス今日ニ於キマシテハ、毛織物ノ規則カラ、其ノ毛織物織機ノ封緘ダケヲ削除スル、其ノ條項ヲ削除スベキデアルト思ヒマス、若シ是ガ商工省當局ノ面子出來ナケレバ、軍需、輸出ヲ製造スル時ハ——毛工聯ガ受註ヲ認メタ時ニハ、之ヲ直チニ解除スルト云フヤウナ制度ニ改善サレタイト思フノデアリマス、商工當局ノ御所見ハ如何デアリマセウカ

第四ト致シマシテハ、現在ノ毛織物及ビ毛製品ノ輸出振興ノ爲ニ、民間資本ヲ以テ輸出毛製品國策會社ヲ設立シ、一元的ニ統制ヲ圖ル必要アリト認ムルノデアリマスガ、當局ノ御所見ハ如何ナモノデアリマセウカ、即チ御提案ニナリマシタル總テハ、所謂品質ノ検査デアリマス、是ハ消極的輸出振興策デアリマスカラ、吾々ハ反對スル者デハナイ、併シナガラ消極的ノ輸出振興策ニ並行シテ、積極的ノ方途ヲ講ゼラルベキ筈デアルノデアリマス、如何ニ輸出ヲ叫ンデモ、原料資材ガナケレバ、木ニ縁ツテ魚ヲ求ムルノ類デアリマス、一元的ニ統制ヲスル、即チ原毛ヲ其ノ會社ガ輸入シ、其ノ原毛ヲ以テ毛絲紡績會社ニ賃扱キヲサセル、更ニ其ノ絲ヲ絲商ニ扱ハセ、生産者ノ手ニ必ズ入ル、サウシテ毛織物ハ整理ヲ必要ト致シマスカラ、之ヲ整理スル、サウシテ輸出商ハ是ノ「メンバール」ニナル、斯ウ云フヤウニ立體的ニ一元化スル必要ガアル、現在ノ情勢カラ申シマスカラ、中小工業ハ毛絲ガ入ツテ來ナイ、若シ採算ガ有利デアラナラバ大工場ガ造ル、又輸出ノ方面カラ行キマシテモ、輸出ノ不當競争ヲ防止スル所ニナル、隨テ一元的ニ輸出國策會社ヲ設立シテ、其ノ資本ハ民間ノ資本デ宜イノデアリマスガ、政府ハ之ヲ監督スル、斯様ナ方法ガ最モ適當デアルト思フガ、商工當局ハ如何ナル御考ヲ持ツテ居ラレノデアリマセウカ、尙ホ之ニ關聯致シマシテ農林大臣ニモ、興亞院、拓務省ニモ御尋シタイト思ヒマスガ、所謂日滿支一體ノ經濟カラ、羊毛ノ増產計畫ヲ如何ナル程度ニ振興セシメラレテ居ルノデアルカ、私ハ氣候、風土ノ關係カラ、各國特徵ノアル羊毛ガ產出サレルト思フノデアリマス、所謂我國ノ緬羊國策ハ、量ニ於テハ自給自足ニ至ラナイデモ、其ノ特徵ヲ發揮スル時ニ、毛織物ノ發展ガアルト思フノデアリマス、英國ノ毛織物ガ高級デアルト云フ所以ノモノハ、所謂「カシミア・ウール」ヲ混入致シマシテ毛織物ヲ造ル爲ニ、英國ノ製品ガ良イノデアル、又北支ノ羊毛ハ概シテ惡イト言ハレテ居リマスケレドモ「カーベット」用ノ如キハ、殆ド北支ノ羊毛ガ亞米利加ニ全部輸出サレルト言ツテモ過言デナイノデアリマス、斯ウ云フ狀態デアリマスカラ、此ノ我國ノ情勢カラ言フナラバ、其ノ特徵ヲ現ハス必要ガアルト思フノデアリマス、斯ウ云フ見地カラ日滿支ノ羊毛國策ヲ樹立スルコトハ、皇軍ノ被服等ヲ利メ、軍需上ノ必需品デアル此ノ緬羊國策、我國ノ毛織物ノ特異性ヲ發揮シテ、輸出貿易ニ貢獻スル所ガナケレバナラナスト思フノデアリマス、之ニ對シテ如何ナル所見ヲ有セラレノデアルカ、農林省、拓務省、興亞院ノ、ソレノ御答辯ヲ得テ置キタイト思フノデアリマス

第五問トシテ、最後ニ絲ノ配給ヲ適正ナラシムル爲ニ、商工當局ハ如何ナル用意ガアルカ、政府ハ絲ノ配給等ニ付キマシテハ、勿論規格ヲ定メテ計畫ヲシテ、サウシテ關係工業組合聯合會ヲシテ絲ノ配給ヲ自治的ニ配給セシメナケレバ、斷ジテ必要ノ方面ヘ物ガ流レテ行カナイト信ズルノデアリマス、現ニ鐵道省ト致シマシテモ、又遞信大臣モ見エマスケレドモ、遞信省トシテモ、或ハ文部省ノ關係デアル女學生ノ服ト致シマシテモ、内務省ノ制服ニ致シマシテモ、恐ラク今日現在ニ於テハ品ガ不足デアルト思ヒマス、又勞働者ノ服ノ如キハ配給ガ不圓滑デアリマス、是ハドウ云フ原因カト申シマスルト、絲ノ配給ガ適正デナイ爲ニ、現在殆ド生産業者ハ是等ノ織物ハ一切生産ヲシテ居リマセス、何故ニ生産シナイカト云フナラバ、絲ノ太イモノハ多ク渡シ、細イモノニハ長サガ長イカラ少ク渡ス、其他幾ラモアリマスケレドモ、省略スル、サウ云フ關係ノ配給方法ヲシテ居ラレマスカラ、生産スルモノガ殆ドナイ、斯ウ云フ現狀デアルノデアリマス、之ニ對シテドンナ對策ヲ商工省ハ御持チニナツテ居ルカ、政府ハ近來工業組合ヲ弱體化セントスルノデハナシカト云フヤウナ、疑マデモ持ツ者ガ相當アルノデアリマス、机上ノ空論ヲ立テマシテ、事業ニ經驗ノナイ者ガ、數學遊戲トデモ申シマスカ、机上ノ算盤ガ合ツタノダ、サウシテ此ノ絲ノ配給ヲスルカラ、大衆向ノ必要品デアル「サージ」ノ如キモノハ、一人モ生産スル者ガナイト言ツテ宜イヤウナ狀態デアル、斯ウ云フ物ヲ若シ作ルナラバ、工場ハ三分ノ一モ操業ガ出來ナイ、生活ハ勿論出來ナイ、斯

ウ云フ無茶苦茶ノ配給デアリマスカラ、中小工業者ガ職ヲ休ンデ上京ラシテ、色々陳情ラシテモ中々御聽入レガナイ、又官廳向ノヤウナ検査ノ厳シイモノ、手數ノ掛ルモノヲ造ルヨリモ、物ノ不足時代デアリマスカラ、頭ヲ使ハズニ唯規格品ヲ造レバ賣ルノデアリマス、頭ヲ使ハス方ガ樂デアリマス、斯ウ云フ風ナ工場ガ輸出品ヲ生産シタナラバ、輸出ハ衰亡スルコトハ明ナモノデアルト私ハ信ジマス、複雑多岐ナル毛織物ノ實情ニ即セザル配給ヲ改メルコトガ急務デアリマス、統制時代ニ即スル爲ニ工業組合ヲ獎勵シ、過去ニ於テ十數年前カラ、統制時代ガ來ル時ニハ工業組合ガ必要デアルト云フノデ、非常ナ獎勵ラシテ、サウシテ統制ノ最モ必要ナル今日ニ於テハ、工業組合ヲ利用セズニ居ル、商工省ハ如何ナル御考デアルカ、私ハ甚ダ言ヒ過ギカモ知レマセスケレドモ、内部ノ軋轢ガ斯様ナ結果ヲ來シテ居ルノデハナイカ、即チ商業組合ニハ手形ノ割引、家族使用人ノ貯金、或ハ出資セザル組合ヲ許ス制度ヲ設ケツツ、工業組合ニハ之ヲ要望シテモ、未ダニ其ノ實現ヲ見ナイ如キハ、所謂工業組合ノ熱心ナ係ノ方ガ押サレテ居ル、手形割引等ニ於テモ、商業組合ニ於テハ今度政府ハ提案サレテ居ル、斯ウ云フコトハナゼ工業組合モ同時ニ改正スルヤウニ、御提案ニナラナカツタノデアルカ、私ハ以上申述ベシタル諸點カラ考ヘマシテモ、工業組合ニ實際ノ配給ヲ掌ラセナケレバ、到底絲ノ配給ハ圓滿デナイト思フデアリマス、政府ハ唯輸出振興ノ爲ニ織物ノ嚴格ナル検査ヲスルノデ、斯ウ云フ消極方面ダケニ墮セズニ、積極方面、即チ今日ノ實情ニ即シタル輸出振

興策ヲ立テラレンコトヲ望ムノデアリマス、甚ダ簡單デアリマスケレドモ、私ノ質問致シマシタル諸點ニ付キマシテ、ソレノ明快ナル御答辯ヲ要求スル次第デアリマス(拍手)

(政府委員加藤鐵五郎君登壇)

○政府委員(加藤鐵五郎君) 只今渡邊君ヨリ各方面ニ互リ、多年ノ御經驗ニ基イタル専門ノ御質疑ガアツタノデアリマスルガ、此處デハ極ク大綱ニ付テノミ御答致シマシテ、何レ委員會ニ於テ詳細ニ御答致シタイト存ズル次第デアリマス、第一ハ「リンク」制度ヲ改善シテハドウカト云フ御質問デアツタヤウニ思ヒマスルガ、毛織品ノ「リンク」制ハ、實施以來相當ノ效果ヲ擧ゲテ參リマシタガ、今後ハ海外市場ノ狀況、原毛輸入ノ關係、其ノ他ノ狀況ノ變化モゴザイマスルガ故ニ、内容制度ニ於テモ、今後相當ノ改善ヲ致サナケレバナラヌト存ジマスル、殊ニ只今ノ數量ノ「リンク」ラシテ居ツテハイカヌデアリナカ、金額ト云フモノヲ考ヘナケレバナラヌデアリナカ、期限ガ短イデアリナカ、高級品ヲ出サナケレバナラヌデアリナカト云フヤウナ御議論ニ至リマシテハ、洵ニ御尤モデアリマシテ、政府ト致シマシテモ今後渡邊君ノ御説ニ從ヒマシテ、慎重考慮ヲ致シマシテ、「リンク」制ノ改善ヲ期シタイト存ズル次第デアリマス

テ、兩者ノ間ニ適正ナル調整ヲ保持致シタイト考ヘテ居ル次第デアリマス
次ニ毛織物ノ封緘規則ノ改正ニ關シマシテノ御質疑ガアツタノデアリマスルガ、國內民需ノ毛絲ノ配給機構ガ段々良クナルニ從ヒマシテ、封緘ノ必要モ段々減ジテ參ツタヤウニ存ゼラレルノデアリマシテ、目下是ガ改廢ニ付キマシテハ、相當考慮致シテ居ル次第デアリマス、併シ差當リ軍需品、輸出品ノ製造ニ不便ノナイヤウニスル爲ニ、本規則ノ運用ニ付キマシテハ、地方廳ニ對シテ適切ナル指示ヲ、今後致シタイト存ズル次第デアリマス

次ニ生絲ノ配給ニ關スル御質問デゴザイマシタガ、生絲ノ配給ニ付キマシテハ、漸次其ノ機構モ改善サレテ參リマシタガ、何分限ラレタル原料デ、出來ルダケ國內ノ必要ヲ充タサウト云フノデアリマスルガ故ニ、今後ハ毛織物規則ノ統制ト、生産計畫ノ具體化トモ密接ナ關係ガアリマスノデ、是等ノ點ヲ睨ミ合セマシテ、今後一層適切ナル方法ヲ講ジタイト存ジテ居ル次第デアリマス、又輸出毛織物會社ニ付テノ御意見デゴザイマシタガ、拜聽致シマシテ、今後十分ニ研究致シタイト存ズルノデアリマス、其ノ他詳細ノ點ニ付キマシテハ、何分専門ニ互ツテ居ルコトデゴザイマスルガ故ニ、委員會ニ於テ他ノ政府委員ヨリ詳細ニ御答ヲ致シタイト存ズル次第デアリマス

(國務大臣小磯國昭君登壇)

○國務大臣(小磯國昭君) 拓務省トシテ關係シテ居リマスル羊毛ノ増産ニ關シテ御答申上ゲマス、朝鮮ニアリマシテハ目下綿羊四万一千頭ヲ保有シテ居ルニ過ギマセヌハ併シナガラ昭和九年ヨリ昭和二十一年ニ互

ル永年計畫ヲ以テマシテ、之ヲ六十五万頭ニ増産スル計畫ヲ持ツテ居リマス、尙ホ拓務省ノ管理シテ居リマスル東亞綿羊協會ヲシテ、滿洲、北支及ビ蒙疆ニ於ケル羊毛ノ改良増殖ニ關シ指導セシメツツアリマス、其ノ業務ノ一班ヲ申上ゲマスルナラバ、滿洲ニ於テハ龍爪ト云フ所ニ、濠洲綿羊ノ純系牧場ヲ經營シテ居リマス、又蒙疆ノ多倫諾爾ニハ雜種ノ育成牧場ヲ持ツテ居リマス、其ノ外滿洲ノ移民地ニ對シマシテハ、年々三千頭乃至五千頭ノ蒙古羊ヲ無償配付ラシツツアリマス、サウシテ此ノ十五年度ニ於テハ、更ニ北支及ビ蒙疆ニ一箇所ヅツノ牧場ヲ、新規ニ開設スル計畫ニナツテ居リマス、左様御諒承ヲ願ヒマス

(國務大臣島田俊雄君登壇)

○國務大臣(島田俊雄君) 綿羊ノ飼育ノコトニ付テ簡單ニ御答シテ置キマス、御承知ノ如ク昭和十二年ヨリ八年計畫ヲ以テマシテ、百四十万頭ニ綿羊ヲ殖ヤシタイト云フ計畫ヲ進ンデ居ル次第デアリマシテ、昭和十四年ノ現在ニ於キマシテハ十二万五千頭、羊毛ニシテ三十七万疋ノ產額ノ程度デアリマスガ、尙ホ後ノ年度計畫ニ依ツテ、只今申上ゲマスヤウニ、百四十万頭マデソレヲ殖ヤシテ行キタイト云フ計畫ヲ實行中デアルト云フコトダケヲ申上ゲマス

○副議長(田子一民君) 須永好君(須永好君登壇)

○須永好君 本法案ハ輸出毛織物ニ對シ國營検査ヲ施行シテ、其ノ検査合格品ノミヲ輸出セシメテ、サウシテ海外ニ於ケル本邦製品ノ聲價ヲ高メ、其ノ販路ヲ擴張セントスルモノデアリマスカラ、洵ニ結構ナ法案デアリマス、併シナガラ其ノ運用ノ上ニハ

テ、兩者ノ間ニ適正ナル調整ヲ保持致シタイト考ヘテ居ル次第デアリマス
次ニ毛織物ノ封緘規則ノ改正ニ關シマシテノ御質疑ガアツタノデアリマスルガ、國內民需ノ毛絲ノ配給機構ガ段々良クナルニ從ヒマシテ、封緘ノ必要モ段々減ジテ參ツタヤウニ存ゼラレルノデアリマシテ、目下是ガ改廢ニ付キマシテハ、相當考慮致シテ居ル次第デアリマス、併シ差當リ軍需品、輸出品ノ製造ニ不便ノナイヤウニスル爲ニ、本規則ノ運用ニ付キマシテハ、地方廳ニ對シテ適切ナル指示ヲ、今後致シタイト存ズル次第デアリマス

注意ヲセネバナラス問題ガ相當アルト思フ
ノデアリマス、ソコデ之ニ對スル政府ノ所
信ヲ伺ツテ見タイト思フデアリマス

第一ハ新規工夫ノ製品、及び見本の輸出
品ニ對スル取扱ノ問題デアリマス、検査ヲ執
行致シマシテ、其ノ合格品ノミガ輸出サレ
ルト云フコトハ、今マデ出テ居リマシタ輸
出品ニ付キマシテハ、其ノ品質ガ向上致シ
マシテ、相當聲價ヲ高メルト云フ效果ハア
ルノデアリマスケレドモ、動トモ致シマス
ルト此ノ検査ノ規定ニ拘束ヲサレマシテ、
新規工夫ノ見本の製品ノ進出ヲ抑ヘテシ
マフ、其ノ爲ニ販路擴張ノ上ニモ支障トナ
ルコトガアルデアリマス

(副議長退席、議長著席)

殊ニ我國ノ毛織物ノ如キ、新シイ販路ヲ
見付ケテ進出シナケレバナライ立場ニア
ルモノハ特ニ斯ウ云フ必要ヲ考ヘルノデア
リマス、而モ其ノ生産方法ガ中小工場ニ於
テ生産サレ、ソコニ創作的ナ技術ヲ特徴ト
シテ持ツテ、サウシタ商品トシテ出テ參ル
ノデアリマスケレドモ、其ノ特徴ヲ生カス
ト云フコトニ相當注意致シマセスト云フト、
私ハ輸出ノ上ニ支障ヲ來スト思フデアリ
マスガ、之ニ對スル商工省ノ御考ガ伺ヒタ
イデアリマス

第二點ハ、設備改良ニ付テノ特別ナ考慮
ヲ與ヘラレカドウカト云フコトデアリマ
ス、本法ノ施行ノ目的ガ品質ノ向上ニアリ
マスコトハ、先程ノ説明ノ通りデアリマス
ルガ、其ノ品質ヲ向上サセルト云フコト
ハ、決シテ検査ノミデハ品質ノ向上ガ達セ
ラレナイノデアリマス、ソコデ製造設備ノ
改良モ伴ハネバナライト思フデアリマ
スルガ、我國ノ輸出毛織物ノ製造ハ、歴史

モ淺ク、設備モ小規模ニシテ、而モ完全デ
ハナイデアリマス、特ニ之ヲ經營スル者
ガ多ク中小工業家ノ經營デアリマスル關係
上、其ノ設備ノ改良ハ必要デアリナガラ、
而モ非常ナ困難ナ事情ニアルデアリマス、
隨テ設備改良ノ資金ノ融通ノ問題、及び織
機改良ノコトニ對シマシテハ、特ニ政府ニ
於テ考慮ヲ拂ハナケレバ、本法ヲ折角制定
致シマシタ目的ニ副ハナイモノガアルト思
フデアリマスルガ、此ノ設備改良ニ對ス
ル政府ノ御方針ヲ承リタイノデアリマス

第三ニ承リタイコトハ、毛製品ト原毛ト
ノ「リンク」ノ問題デアリマス、此ノ問題
ニ付キマシテハ、先程同僚渡邊君カラ御伺
ガアツタヤウデアリマスルカラ、私ハ其ノ
答辯ヲ満足スルノデアリマスルケレドモ、
併シナガラ特ニ注意ヲ拂ツテ戴キタイ點ニ
付キマシテ一點申上ゲマスルナラバ、價格
「リンク」ニ致シマセウガ、或ハ數量「リン
ク」ニ致シマセウガ、結局モウ一ツ考慮ニ
入レナケレバナライコトハ、其ノ原毛ノ
輸入先ト製品ノ輸出先トノ關係デアリマス、
今日ニ於キマシテハ濠洲ノ方面カラ最モ澤
山ノ原毛ヲ輸入シテ居ルノデアリマスガ、
其ノ輸出先ハ印度方面ノ變ツタ方面ニ出テ
參ルノデアリマス、是ハ我國ニ於キマスル
「リンク」制度ノ全體ニ互ツテ考慮スベキ問
題デアルト思フデアリマスケレドモ、此
ノ輸出入先ト云フコトヲ考慮ニ入レマセヌ
ト、私ハ今日ノ如ク制限サレタ貿易ノ間ニ
於テハ、「リンク」ノ制度ニ依ツテ輸出ハ幾
ラデモ發展スルト考ヘテ居リマシテモ、サ
ウ參ラヌト考ヘルノデアリマス、例ヘバ濠
洲方面ニ於テハ原毛ハ輸出致シマスケレド
モ、決シテ毛織物ヲ輸入致シマセヌ、隨テ

濠洲方面デ買入ヲ希望シテ居ルモノハ、結
局人絹織物其ノ他ノ製品デ出テ參ルノデア
リマス、斯様ナ輸出先ヲ考慮致シマシタ「リ
ンク」制ヲ相當考慮ニ入レル必要ガアルト
思フデアリマス、此ノ點ニ付キマシテハ、
先程ノ渡邊君カラノ質問ノ上ニ更ニ此ノ一
點ヲ考慮ニ入レテ戴キタイト考ヘルノデア
リマス

第四ノ問題ハ圓「ブロック」ヘノ輸出ニモ
検査ヲ行ヒ、合格品ノミヲ輸出セントスル
方針デアアルヤウデアリマスガ、本法ニ依ル
検査ガ施行セラルルコトニナリマスルナラ
バ、不合格品モ相當出來ルト思フデアリ
マス、特ニ今日マデノ取引ノ事情カラ考ヘ
マスルナラバ、圓「ブロック」向ノ輸出品ハ
一變セラレナケレバナラヌト考ヘルノデア
リマス、私ハ圓「ブロック」ヘノ輸出品ハ、
検査ヲスルト致シマシテモ、第三國向ト區
別ヲシタ検査ヲ行ヒ、第三國向不合格品ト
雖モ、輸出ノ出來ルヤウナ方法ヲ講ズベキ
ダト考ヘテ居リマスガ、政府ハ之ニ對シテ
ドウ云フ風ニ御考デアリマスカ、其ノ點御
伺シタイト思フデアリマス

第五ハ、原料確保ニ付テノ政府ノ所信ガ
伺ヒタイノデアリマス、是ハ單ニ輸出毛織
物ノ問題ダケデハナイノデアリマシテ、我
國ノ毛織物全體ニ付テノ政策ニ付テ伺ヒタ
イノデアリマス、毛製品ハ今日我が國民生
活ノ上ニ於テ最早缺クベカラザルモノデア
ルト同時ニ、重要ナル軍需品デアアルコトハ
申スマデモナイノデアリマス、併シナガラ
我國ニ於キマシテハ其ノ原料ガ極メテ乏シ
ク、數十年前ヨリ其ノ生産ニ努力シテ居ル
ニモ拘ラズ、未ダニ其ノ成績ハ十分ニ舉
ツテ居ラナイノデアリマス、昨年カラ日

滿ヲ通ジマシタ綿羊七箇年計畫等ガ立テ
ラレタトハ申シマスルケレドモ、其ノ目
標ト云フモノハ餘リ貧弱ニシテ、私ハ日
滿支ヲ一體トシタ今日ノ事情ニ比ベマス
ナラバ、更ニ大規模ナ計畫ヲ立ツベキ
デアラウト考ヘルノデアリマスガ、先程
拓務大臣、農林大臣等カラ朝鮮及ビ内地ニ
於ケル増産計畫ノ一部ハ承ツタノデアリマ
スルガ、私ハ更ニ滿洲及ビ支那モ入レタ大
キナ此ノ原料ヲ獲得スル所ノ計畫ニ付テド
ウ云フ御考デアアルカラ承リタイノデアリマ
ス、私ハ此ノ毛織物ガ缺クベカラザル軍需
品デアルト云フ見地カラ申シマスルナラバ、
日滿支一體ノ上ニ立テバ、單ニ我國ノ輸出
貿易ノ保護ト云フ見地ヨリモ、此ノ軍需品
ヲ自給自足スルト云フ見地ニ立ツテ、三百
萬ヤ五百万ノ軍隊ガ五年ヤ六年動イテ居リ
マシテモ、「ステープル・ファイバー」ノ混ツ
タ洋服ヲ著セテ出スコトノナイヤウナ、シ
ツカリシタ羊毛ニ對スル所ノ計畫ヲ立テテ
欲シイト考ヘルノデアリマス、此ノ點ハ先
程渡邊君ノ質問ニ御答ニナリマシタノデア
リマスルケレドモ、私ノ質問セントスル立
場ハ、所謂輸出品トシテノ特徴ヲ持タスト
云ツタ立場ヨリモ、今日ニ付キマシテハ軍
需品トシテノ重要ナ此ノ綿毛ノ需給ヲ自給
自足出來ル程度ニマデ、日滿支一體ノ上ニ
其ノ計畫ヲ立テル必要ガアルノデアリカ
ト云フ見地ニ立ツテ、滿洲支那方面ニ對ス
ル分マデ一ツ考ヘテ、此ノ點ハ拓務大臣及
ビ對滿事務局總裁デアリマスル所ノ陸軍大
臣等カラ御答辯ガ願ヒタイト思フデアリ
マス

第六ノ問題ハ國民服制定ノ問題ニ付テデ
アリマス、何ト言ヒマシテモ、現在ハ原毛

第三國ニ仰ガネバナラヌ國情ニ置カレテ居ルノデアリマス、隨テ毛製品ニ付キマシテハ、最モ經濟的ニ、而モ有效ニ之ヲ使用セナケレバナラナイと思フデアリマス、軍需ヲ全ウスレバ民需ガナイ、民需ヲ少シデモ補ハウトスレバ、軍需ガ全カラズト云フヤウナ今日ノ時代ニ於キマシテハ、少ク

同收シ、サウシテ新シイ國民服トシテ更生シテ出ス必要ガアルと思フデアリマスルガ、之ニ付テ御所見ガ承リタイノデアリマス、以上簡單デアリマスルガ明確ナル御答辯ヲ戴キタイと思ヒマス、私ハ是ニテ質問ヲ打切ルコトニ致シマス(拍手)

(政府委員加藤鐵五郎君登壇)

トモ私ハ軍民ト切離サズシテ、全ク軍民共用ノ國民服ノ制定ヲ行ヒ、之ヲ兵役ニ最モ近接シテ居リマスル所ノ勤勞大衆ニ重點ヲ置イテ配給シ、サウシテ此ノ國民服ハ直チニ民間ノ「ストック」ノ形ニシテ置イテ、一朝事アル時ハ召集サレタ者ガ直チニ之ヲ著テ出テ出征スルコトガ出來ルト云フコトニシマスルナラバ、是ハ民需ヲ全ウシ、且ツ軍用ヲ充實セシムル所ノ方法デアルト考ヘルノデアリマス、斯様ニ考ヘマスルナラバ、今日ノ民需ノ如ク、上流社會ニ於キマシテハ、殆ド純毛品ヲ獨占シテ、サウシテ上流社會ニハ贅澤ナ純毛ノ洋服ヲ何著モ死藏シテ置クヤウナコトガサレテ居ルノデアリマスルケレドモ、之ヲモット大衆化スルト同時ニ、是ガ直チニ軍需ニ役立ツヤウナ方法ヲ講ズルコトハ、今日最モ必要ナコトデアルト考ヘルノデアリマス、此ノ點ニ付キマシテ陸軍大臣ノ御所見ガ伺ツテ置キタイノデアリマス(拍手)更ニ此ノ國民服制定ノコトニ關聯致シテ、私ガ政府ノ意向ヲ質シタイと思ヒマスルコトハ、今日現在ニ於キマスル如ク極ク缺乏シタル時代ニ於キマシテモ、私ハ反毛回收ノ運動ガ十分ニ徹底シテ居ラスト云フコトヲ考ヘマスル時ニ、商工省ハ此ノ國民服制定ト同時ニ、此ノ反毛回收運動ヲ猛烈ニシテ、サウシテ今日ノ上流社會ニ死藏セシメタル所ノ一切ノモノヲ

〇政府委員(加藤鐵五郎君) 須永君ニ御答致シマス、須永君ハ毛織物ノ検査ニ當ツテ、見本品若クハ新規商品ニ付テハドウ云フ扱ヒヲスルノデアアルカト云フ御尋デアリマスルガ、毛織物検査ヲ實施シマスルニ付キマシテハ、見本品タルコトガ明カデアアル場合ハ、是ハ検査カラ除外致シマス、又新規ノ商品ニ付キマシテ検査ヲ爲シマシテモ、其ノ運用ニ關シマシテハ、何處マデモ輸出獎勵ノ立場ニ立ツテ、適當ニ措置ヲ致シタイト存ズルノデアリマス、併ナガラ假令新規商品デアリマシテモ、其ノ物ガ粗惡デアツタ場合ハ、サウシテ海外ノ聲價ヲ落シヤウナ場合ハ、是ハ不合格トセザルヲ得スノデアリマス

次ニ毛織物ノ工場ノ設備ハ、斯ウ云フ毛織物工場ハ中小工業者ガ多數デアアルガ爲ニ不完全デアアルガ、之ヲ何トカ改善シナケレバナラスト思フノガ、政府ノ所信如何ト云フ御質問ノヤウ承ツタノデアリマス、何分此ノ改善ト云フコトハ、第一ニ金ガ大切デ、金融ノ問題デアルト思ヒマスガ故ニ、政府ト致シマシテハ、本年モ商工中央金庫法ヲ改正致シマシテ、其ノ融通ヲ一層圓滑ニ致シマシテ、以テ此ノ工場ノ改善ニ資シタイト存ズル次第デゴザイマス

次ニ「リンク」制ノ問題ニ付テノ御質問デアリマス、是ハ先刻渡邊君ニ御答致シマシタ如クデアリマスルガ、更ニ只今ノ御質問ニ依リマシテ、政府トシテハ一層考慮研究致シタイト存ズル次第デアリマス

次ニ「ブロック」向ノ毛織物ニ付テノ検査ハ、サウ嚴重ニシナクテモ宜イデハナイカ、幾分手心ヲ加ヘテモ宜イデハナイカト云フ意味ノ御質問存ジマシタ、一應御尤モナル御質疑デアリマスルガ、現ニ「ブロック」ニ對シマシテ、絹織物及ビ人絹織物ニ對シマシテモ、國營ノ検査ヲ致シテ居ル關係モアルノデアリマシテ、今回又毛織物モ其ノ同様ノ立場ニ於テ検査ヲ致ス次第デアリマス、殊ニ毛織物ニ對シマシテハ「ブロック」ヲ通ジマシテ第三國ニ輸出サレルトニナリマス、一方ニ於テ十分茲ニ國營ノ検査ヲ致シテ居ルニモ拘ラズ、圓「ブロック」ヲ通ジテ第三國ニ行ク毛織物ガ粗惡ナモノデアリマス、折角一方ニ於テ検査シ、聲價ヲ維持セントスル趣意ニ相反スルコトデアリマスガ故ニ、圓「ブロック」ト雖モ之ヲ除クト云フ譯ニハ參ラナイノデゴザイマス

次ニ反毛回收運動デゴザイマスルガ、只今色々御説ヲ承リマシタガ、是ハ政府トシテモ助力致シマシテ、御趣意ニ副ヒタイト心得テ居ル次第デゴザイマス(拍手)

(國務大臣畑俊六君登壇)

〇國務大臣(畑俊六君) 須永君ニ御答ヲ致シマス、國民特ニ兵役關係者ヲシテ國民服ヲ普及的ニ著用セシメタイト云フ御意見デアリマシタガ、是ハ軍ニ於キマシテモ有事ノ際ヲ願慮致シマシテ、其ノ實現ヲ深ク希望シテ居ル所デアリマス、尙ホ反毛回收ニ關シマスル御意見ハ全然御同意デアリマシテ、軍ニ於テハ特ニ之ヲ隨分細微ニ互ツテヤツテ居リマス、併シナガラ今後更ニ徹底

的ニ一ツ努力ヲ致シタイト考ヘテ居リマス(拍手)ソレカラ日滿支ヲ通ズル羊毛増産計畫デアリマスルガ、是ハ申スマデモナク、軍需其ノ他ニ至大ノ關係モアリマスルシ、殊ニ物動計畫ト見合セマシテ、ソレム各々方面連繫シテ今シツカリ研究モシ、又相當ノ案モ出來テ居ルノデアリマス(拍手)

(國務大臣小磯國昭君登壇)

〇國務大臣(小磯國昭君) 先刻渡邊君ノ御質問ニ對シ御答ヲ申上ゲマシタ如ク、拓務省ハ東亞細亞協會ノ關係ニ於テ、滿洲北支及ビ蒙疆ノ羊毛改良及ビ増加ニ關係ヲシテ居リマスルカラ、此ノ方面ノ地域ニ關スル増産計畫ニ關シ、私ヨリ御答ヲ申上ゲマス、滿洲ニ於テハ現在約二百四十萬頭ノ羊ガ居リマス、之ヲ十年計畫ヲ以テ四百二十萬頭ニ増加スル等デアリマス、北支ニ於テハ在來種ガ今日約四百萬頭居リマス、蒙疆ニ於テハ在來種ガ五百四十五萬頭居リマス、サウシテ東亞細亞協會ノ努力ニ依リ、今後八年間ノ目途ヲ以テ、北支ニハ改良種ヲ百萬頭、蒙疆ニハ改良種二百萬頭ノ増殖ヲスル計畫ニナツテ居リマス(拍手)

〇議長(小山松壽君) 是ニテ質疑ハ終了致シマシタ、本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

〇服部崎市君 本案ハ政府提出輸出資金及輸出品製造資金融通損失補償法案ノ委員ニ併セ付託サレンコトヲ望ミマス

〇議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

〇議長(小山松壽君) 異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第七、

要塞地帯法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キ
マス——吉田海軍大臣

第七 要塞地帯法中改正法律案（政府
提出、貴族院送付） 第一讀會

要塞地帯法中改正法律案

第三條中「及第七條第二項ノ區域」ヲ削リ

「二百五十間」ヲ「千メートル」ニ、「七百五

十間」ヲ「五千メートル」ニ、「二千二百五

十間」ヲ「一萬五千メートル」ニ改ム

第四條中「築城部本部長」ヲ「陸軍築城部

本部長」ニ改メ「及第七條第二項ノ區域

内」ヲ削ル

第五條中「及第七條第二項ノ區域」及「及

第七條第二項ノ區域内」ヲ削ル

第六條中「第三條及第七條第二項」ヲ「及

第三條」ニ改ム

第七條 何人ト雖要塞司令官ノ許可ヲ得

ルニ非サレハ要塞地帯内水陸ノ形狀又

ハ施設物ノ狀況ニ付撮影、模寫、模造

若ハ錄取又ハ其ノ複寫若ハ複製ヲ爲ス

コトヲ得ス但シ軍機保護法ニ特別ノ規

定アルモノニ付テハ其ノ規定ニ依ル

第八條中「要塞地帯内」入リ」ヲ「要塞地

帯内ニ於テ」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ行

フ

陸軍大臣又ハ要塞司令官ハ特ニ必要ア

ルトキハ前項ノ規定ニ依リ退去ヲ命セ

ラレタル者ニ對シ要塞地帯内ニ入ルコ

トヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第九條 要塞地帯ノ第一區内ニ在リテハ

要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ左

ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲スコト

ヲ得ス

一 家屋、工場、倉庫其ノ他ノ工作物

ノ新築、改築又ハ増築

二 爆發物ノ使用若ハ貯藏又ハ容易ニ

燃焼スヘキ物件ノ貯藏

三 用水路、惡水路又ハ溜池ノ新設又

ハ變更

四 竹木林ノ造成又ハ伐採

五 墓地ノ新設又ハ變更

六 山林又ハ原野ニ於ケル焚火

七 漁撈、採藻又ハ船舶ノ繫泊

八 狩獵

第十條 第二區内ニ在リテハ要塞司令官

ノ許可ヲ得ルニ非サレハ水準標高四十

メートル以上ノ高地ニ於ケル家屋、工

場又ハ倉庫ノ新築、改築又ハ増築ヲ爲

スコトヲ得ス

第十一條 第一區及第二區内ニ在リテハ

要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ左

ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲スコト

ヲ得ス

一 不燃質物ヲ材料トスル工作物ノ新

築、改築又ハ増築

二 土地ノ形質ヲ變更スル土石ノ採掘

又ハ堆積

三 公園、運動場、競馬場、飛行場、

耕作地、果樹園、桑畑、貯水池、養

魚池又ハ塩田ノ新設又ハ變更

四 水深ノ變更ヲ生スヘキ物件ノ委棄

又ハ水底ニ於ケル土石ノ採取

五 火入

六 高周波電流ヲ發スル設備ノ新設又

ハ變更

第十二條 第一區及第二區内ニ在リテハ

陸軍大臣ノ許可ヲ得ルニ非サレハ左ノ

各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲スコトヲ

得ス

一 堤塘、棧橋、埠頭、橋梁、道路、運河、

隧道、鐵道又ハ軌道ノ新設又ハ變更

二 水面ノ埋立又ハ干拓

第十三條 第七條又ハ第九條乃至前條ノ

規定ニ依ル許可ニハ條件ヲ附スルコト

ヲ得

前項ノ條件ハ國防上必要アルトキハ之

ヲ變更スルコトヲ得

第十四條 要塞司令官ハ第九條乃至第十

一條ノ規定又ハ第九條乃至第十一條ノ

規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反

シタル者ニ對シ、陸軍大臣ハ第十二條

ノ規定又ハ同條ノ規定ニ依ル許可ニ附

シタル條件ニ違反シタル者ニ對シ原狀

回復ヲ命スルコトヲ得

第十五條乃至第十七條ヲ削リ第十八條ヲ

第十五條トス

第十九條中「禁止」ヲ削リ同條ヲ第十六條

トス

第二十條中「禁止」及「及第七條第二項

ノ區域」ヲ削リ「第十九條」ニ改

メ同條ヲ第十七條トス

第二十一條中「第七條第九條第十一條乃

至第十五條」ヲ「第七條及第九條乃至第十

一條」ニ、「第十六條」ヲ「第十二條」ニ改

メ同條ヲ第十八條トス

第三章 罰則

第十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ

三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金

ニ處ス

一 第九條第二號ノ規定ニ違反シタル

者

二 第十一條第一號又ハ第五號ノ規定

ニ違反シタル者

三 第十二條ノ規定ニ違反シタル者

第二十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ

二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金

ニ處ス

一 第七條ノ規定ニ違反シタル者

二 第八條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ

從ハサル者又ハ同條第二項ノ規定ニ

依ル禁止若ハ制限ニ違反シタル者

三 第九條第一號又ハ第三號乃至第五

號ノ規定ニ違反シタル者

四 第九條第六號乃至第八號ノ規定ニ

違反シタル者

五 第十條ノ規定ニ違反シタル者

六 第十一條第二號乃至第四號又ハ第

十六號ノ規定ニ違反シタル者

第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者

ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金

若ハ科料ニ處ス

一 第七條ノ規定ニ依ル許可ニ附シタ

ル條件ニ違反シタル者

二 第九條第一號乃至第五號ノ規定ニ

依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタ

ル者

三 第九條第六號乃至第八號ノ規定ニ

依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタ

ル者

四 第十條ノ規定ニ依ル許可ニ附シタ

ル條件ニ違反シタル者

五 第十一條ノ規定ニ依ル許可ニ附シ

タル條件ニ違反シタル者

六 第十二條ノ規定ニ依ル許可ニ附シ

タル條件ニ違反シタル者

第二十二條 各區ノ區域ヲ標示スル爲設

ケタル標識ヲ損壞シ又ハ其ノ他ノ方法

ヲ以テ之ヲ無効ナラシメタル者ハ三百

要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十三條 法人又ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者カ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第十九條、第二十條第三號、第五號若ハ第六號又ハ第二十一條第二號若ハ第四號乃至第六號ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人ハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

〔國務大臣吉田善吾君登壇〕

○國務大臣(吉田善吾君) 要塞地帶法中改正法律案ノ理由ニ付説明致シマス、

現行要塞地帶法ハ明治三十二年ニ制定公布セラレ、其ノ後大正四年ニ必要事項ヲ増補セラレタノデアリマスガ、爾後社會一般ノ情勢ノ變化、特ニ軍事方面ノ飛躍的進歩ニ直面致シマシタル今日ニ於キマシテハ、現行法ヲ以テシマシテハ、要塞ノ戰備、軍機ノ保護、特ニ防諜ニ對スル諸要求ヲ十分ニ満足セシメ得ザル狀況ニ立至リマシタノデ、

現行要塞地帶法ヲ次ノ諸點ニ付キマシテ改正スルノ必要ニ迫ラレタル次第デアリマス其ノ要點ヲ擧ゲマスレバ、要塞ノ地域ヲ擴大スルコト、禁止制限事項ヲ整理、増補合理化スルコト、及ビ罰則ヲ社會ノ狀態ニ一致セシムルコト等デアリマス、要塞區域ノ擴大ヲ致シマスルノハ、最近ニ於ケル兵器資材ノ進歩ト戰鬪方式ノ變化トニ鑑ミ、主トシテ要塞戰鬪ノ自由ヲ得ルト共ニ、防諜ノ完備ヲ期スル爲ニ必要トセララルニ至ツタモノデアリマス、次ニ禁止制限事項ノ整理等ニ付キマシテハ、現行法ノ條規ガ現在ノ狀態ニ即セザルモノガアリマスノデ、整理、増補、合理化セント致スモノデアリマス、罰則ニ付キマシテハ社會ノ現況ト他ノ法律ノ罰則トノ關係ヲ睨ミ合セマシテ、所要ノ點ヲ改正致スモノデゾイマス、以上ノ如ク改正致サルコトニナリマスレバ、概ネ要塞ノ戰備ト其ノ軍機確保トノ兩目的ヲ達成スル爲、遺漏ナキモノト信ジテ居リマス、御審議ノ上御協賛アラシコトヲ御願致シマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセスカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタル日程第八、獸醫師法等ノ臨時特例ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ開キマス——島田農林大臣

第八 獸醫師法等ノ臨時特例ニ關スル法律案(政府提出、貴族院送付)

獸醫師法等ノ臨時特例ニ關スル法律案

第一條 農林大臣ハ當分ノ内左ノ各號ノ一ニ該當スル資格ヲ有スル者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ獸醫手ノ免許ヲ爲スコトヲ得

一 命令ノ定ムル所ニ依リ大學、實業專門學校又ハ實業學校ニ於テ獸醫學ヲ修メタル者

二 獸醫手試驗ニ合格シタル者

前項第二號ノ獸醫手試驗ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 前條ノ免許ヲ受ケタル獸醫手ニシテ市町村、畜產組合、畜產組合聯合會又ハ命令ヲ以テ定ムル團體ノ職員タルモノハ獸醫師法第四條ノ規定ニ拘ラズ業務トシテ當該團體ノ事業ニ屬スル家畜ノ疾病ニ關スル診察又ハ治療ヲ爲スコトヲ得

第三條 獸醫師法第二條、第三條、第五條、第六條第二項、第七條、第八條、第十二條、第十三條第二號及第三號並ニ第十四條ノ規定ハ獸醫手ニ之ヲ準用ス但シ同法第二條第二號中未成年者、禁治產者又ハ準禁治產者トアルハ禁治產者又ハ準禁治產者トス

第四條 家畜傳染病豫防法、畜牛結核病豫防法、藥劑師法、阿片法及藥品營業並藥品取扱規則ノ適用ニ付テハ獸醫手ハ之ヲ獸醫師ト看做ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム畜牛結核病豫防法第十八條中「二十圓以下ノ罰金」ヲ「五十圓以下ノ罰金又ハ科料」ニ改ム

〔國務大臣島田俊雄君登壇〕

○國務大臣(島田俊雄君) 只今議題トナリマシタ獸醫師法等ノ臨時特例ニ關スル法律案ニ付テ提案ノ理由ヲ説明致シマス、本法案ハ現時局下ニ於キマシテ獸醫師ノ著シク不足セル實情ニ鑑ミマシテ、別途ニ實業專門學校ニ於ケル獸醫師養成施設ノ擴充ヲ行ヒマシタガ、之ヲ以テシテモ尙ホ獸醫師ノ不足ヲ充タスニ足りマセズノデ、茲ニ臨時的措施トシテ新ニ獸醫手ナル制度ヲ設ケ、實業學校ニ於テ一定時間以上獸醫學ヲ修メタル者ニ對シ獸醫手ノ免許ヲ與ヘ、是等ノ者ガ市町村、畜產組合等ノ團體ノ職員タル場合ニ限リ、獸醫師法ノ制限ニ拘ラズ、當該團體ノ事業ニ屬スル家畜ノ疾病ニ關スル診療ヲ爲サシメントスルモノデアリマス、之ニ依ツテ現在ノ獸醫手ノ不足ヲ緩和シ、以テ軍馬資源ノ確保及ビ畜產生産力ノ擴充上遺憾ナカラシメントスルモノデアリマス、

本法案ハ現下ノ時局ニ對應シ、極メテ適切

條、第六條第二項、第七條、第八條、第十二條、第十三條第二號及第三號並ニ第十四條ノ規定ハ獸醫手ニ之ヲ準用ス但シ同法第二條第二號中未成年者、禁治產者又ハ準禁治產者トアルハ禁治產者又ハ準禁治產者トス

第四條 家畜傳染病豫防法、畜牛結核病豫防法、藥劑師法、阿片法及藥品營業並藥品取扱規則ノ適用ニ付テハ獸醫手ハ之ヲ獸醫師ト看做ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム畜牛結核病豫防法第十八條中「二十圓以下ノ罰金」ヲ「五十圓以下ノ罰金又ハ科料」ニ改ム

〔國務大臣島田俊雄君登壇〕

○國務大臣(島田俊雄君) 只今議題トナリマシタ獸醫師法等ノ臨時特例ニ關スル法律案ニ付テ提案ノ理由ヲ説明致シマス、本法案ハ現時局下ニ於キマシテ獸醫師ノ著シク不足セル實情ニ鑑ミマシテ、別途ニ實業專門學校ニ於ケル獸醫師養成施設ノ擴充ヲ行ヒマシタガ、之ヲ以テシテモ尙ホ獸醫師ノ不足ヲ充タスニ足りマセズノデ、茲ニ臨時的措施トシテ新ニ獸醫手ナル制度ヲ設ケ、實業學校ニ於テ一定時間以上獸醫學ヲ修メタル者ニ對シ獸醫手ノ免許ヲ與ヘ、是等ノ者ガ市町村、畜產組合等ノ團體ノ職員タル場合ニ限リ、獸醫師法ノ制限ニ拘ラズ、當該團體ノ事業ニ屬スル家畜ノ疾病ニ關スル診療ヲ爲サシメントスルモノデアリマス、之ニ依ツテ現在ノ獸醫手ノ不足ヲ緩和シ、以テ軍馬資源ノ確保及ビ畜產生産力ノ擴充上遺憾ナカラシメントスルモノデアリマス、

本法案ハ現下ノ時局ニ對應シ、極メテ適切

○議長(小山松壽君) 本案ノ審査ヲ付託ス

○議長(小山松壽君) 本案ノ審査ヲ付託ス

○議長(小山松壽君) 本案ノ審査ヲ付託ス

○議長(小山松壽君) 本案ノ審査ヲ付託ス

○議長(小山松壽君) 本案ノ審査ヲ付託ス

○議長(小山松壽君) 本案ノ審査ヲ付託ス

○議長(小山松壽君) 本案ノ審査ヲ付託ス

○議長(小山松壽君) 本案ノ審査ヲ付託ス

○議長(小山松壽君) 本案ノ審査ヲ付託ス

○議長(小山松壽君) 本案ノ審査ヲ付託ス

○議長(小山松壽君) 本案ノ審査ヲ付託ス

○議長(小山松壽君) 本案ノ審査ヲ付託ス

○議長(小山松壽君) 本案ノ審査ヲ付託ス

○議長(小山松壽君) 本案ノ審査ヲ付託ス

第二十九條 各區ノ區域ヲ標示スル標識ヲ設置スル爲ニ要スル敷地ノ買収及使用ニ關シテハ陸地測量標條例ヲ準用ス

第二十八條 罰則

第二十九條 罰則

第二十九條 罰則

第二十九條 罰則

第二十九條 罰則

ナルモノト信ズル次第アリマシテ、過般中央衛生會ニ諮詢ヲ致シマシテ、其ノ答申ニ基キ立案致シタモノデアリマス、何卒御審議ノ上速ニ御協賛アラシコトヲ希望致シマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○服部崎市君 本案ハ政府提出、昭和十二年法律第九十號中改正法律案ノ委員ニ併セ付託サレンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第九、宇品港域軍事取締法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス——畑陸軍大臣

第九 宇品港域軍事取締法中改正法律案

(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

宇品港域軍事取締法中改正法律案

宇品港域軍事取締法中改正法律案

宇品港域軍事取締法中改正法律案

第一條 本法ニ於テ陸軍輸送港域トハ左ニ掲グル區域ニシテ命令ヲ以テ指定スルモノヲ謂フ

- 一 廣島縣廣島市、同縣安藝郡海田市町、矢野町、船越町、府中町、奥海田村、溫品村、戸坂村、畑賀村、中野村、坂村及中山村、同縣安佐郡祇園町、福木村、山本村及長束村、同縣佐伯郡廿日市町、嚴島町、五日市町、地御前村、原村、宮内村、井口村、石内村、河内村、八幡村、觀音

村、平良村、大野村、玖嶋村及砂谷村並ニ其ノ附近ノ水面

二 佐賀縣東松浦郡切木村及入野村、同縣西松浦郡伊萬里町、山代町、黒川村、波多津村、大坪村、大川内村、二里村及東山代村、長崎縣北松浦郡志佐町、今福町、星鹿村、調川村、福島村、鷹嶋村、上志佐村及御厨村並ニ其ノ附近ノ水面

第二條及第九條中「宇品港域」ヲ「陸軍輸送港域」ニ改ム

第三條中「宇品港域」ヲ「陸軍輸送港域」ニ改ム

同條第一號中「棧橋」ヲ「堤塘、棧橋、」ニ改ム

「新設、増設又ハ改修」ヲ「新設又ハ變更」ニ改ム

同條第三號及第四號ヲ削ル

第四條 陸軍輸送港域第一區内ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル行為ヲ爲サントスル者ハ陸軍運輸部長(陸軍大臣ノ特ニ定ムル場合ニ於テハ其ノ指定スル陸軍運輸部長ノ職員トス以下之ニ同ジ)ノ許可ヲ受クベシ但シ命令ヲ以テ許可ヲ要セズト規定シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 家屋、工場、倉庫其ノ他ノ工作物ノ新築、改築又ハ増築

二 前號ニ掲グル工作物以外ノ工作物ニシテ不燃質物ヲ材料トスルモノノ新築、改築又ハ増築

三 用水路、悪水路、溜池、貯水池又ハ養魚池ノ新設又ハ變更

四 公園、廣場、運動場、競馬場又ハ飛行場ノ新設又ハ變更

五 土地ノ形質ヲ變更スル土石ノ採掘又ハ堆積

六 水深ノ變更ヲ生ズベキ物件ノ委棄又ハ水底ニ於ケル土石ノ採取

七 爆發物ノ使用又ハ爆發物若ハ容易ニ燃焼スベキ物件ノ運搬、積卸若ハ貯藏

八 水面ニ於ケル貯木

九 浮標、立標其ノ他航路標識ノ新設又ハ變更

十 船舶ノ航行若ハ繫泊又ハ浅ノ運航若ハ繫留

十一 漁獵又ハ採藻

前項ノ不燃質物、爆發物及容易ニ燃焼スベキ物件ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條中「宇品港域」ヲ「陸軍輸送港域」ニ改ム

「測量」ヲ削リ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ場合ニ於テ軍機保護法ニ特別ノ規定アルモノニ付テハ其ノ規定ニ依ル

第七條中「宇品港域内ニ立入り」ヲ「陸軍輸送港域内ニ於テ」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

陸軍運輸部長ハ特ニ必要アルトキハ前項ノ規定ニ依リ退去ヲ命ゼラレタル者ニ對シ陸軍輸送港域内ニ入ルコトヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第八條第一項中「宇品港域」ヲ「陸軍輸送港域」ニ改ム

第十二條中「宇品港域各區及第八條第二項」ヲ「陸軍輸送港域各區」ニ改ム

第十六條 第九條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハザル船舶ノ長又ハ其ノ職務ヲ執ル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二千萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千萬圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第三條ノ規定ニ違反シタル者

二 第四條第一項第一號乃至第九號ノ規定ニ違反シタル者

第十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千萬圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第三條ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者

二 第四條第一項第一號乃至第九號ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者

三 第四條第一項第十號又ハ第十一號ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者

四 第五條ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者

第十九條中「宇品港域各區又ハ第八條第二項」ヲ「陸軍輸送港域各區」ニ改ム

第二十條 法人又ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第十七條第一號若ハ第二號又ハ第十八條第一號若ハ第二號ノ違反行為ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人ハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルコトヲ得ズ

第二十一條 第十七條第一號及第二號並ニ第十八條第一號及第二號ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十二條 前二條ノ場合ニ於テハ懲役ノ刑ニ處スルコトヲ得ズ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ニ依リ新ニ許可ヲ受クルコトヲ要スルコトト爲リタル事項ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノニ關シ本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

(國務大臣畑俊六君登壇)

○國務大臣(畑俊六君) 只今上程セラレマシタ宇品港域軍事取締法中改正法律案ノ提

案理由ヲ説明致シマス、本法ハ昭和八年三月ニ制定セラレ今日ニ及ンダモノデアリマシテ、殊ニ本次事變ニ際シマシテハ、軍ノ作戰ニ對シ多大ノ貢獻ヲ爲シタルコトハ御承知ノ通りデアリマス、然ルニ今事變ニ於キマスル幾多輸送上ノ經驗ニ鑑ミマシテ、今後ノ大陸ニ對スル兵團ノ輸送、特ニ將來戰ニ於ケル輸送量ノ増加及ビ最近ノ外國對日諜報活動等ヲ顧慮シ、速ニ本法ニ所要ノ修正補足ヲ爲ス必要ヲ生ズルニ至ツタノデアリマス、本改正案ニ於テ改正致シマス要點ハ、龐大ナル數量ニ上ル輸送船舶ノ碇泊出入ニ應ズル港域擴大ノ措置、外國諜者ニ對スル防護措置ノ徹底及ビ軍事輸送竝ニ其ノ準備上必要最小限ノ禁止制限事項ノ増補、此ノ三點デアリマス。

港域ノ擴大ニ付キマシテハ、現在ノ字品
港域ヲ擴大致シマスル外、新ニ北九州ノ伊
萬里灣ニ本法ヲ適用致サントスルモノデア
リマシテ、隨テ本法ノ名稱モ陸軍輸送港域
軍事取締法ト改稱致スコトニ相成リマス、
此ノ港域擴大ノ措置ニ依リマシテ、今後ノ
軍事輸送業務ハ著シク有利ニ相成ルモノト
存ジマス、右ニ述ベマシタ港域擴大ノ措置
ハ、兼テ防諜措置ノ目的ヲモ併セ庶幾シタ
モノデアリマシテ、軍事輸送ニ關スル幾多
ノ軍事秘密事項ヲ外國諜者ノ各種諜報手段
ニ對シ十分ニ祕匿セントスルモノデアリマ
ス、其ノ他軍事輸送港ノ輸送業務遂行ニ支
障ナカラシムル爲、特ニ海面ニ關スル禁止
制限事項ヲ増補スルト共ニ、新ナル禁止制
度ニ應ズル罰則等ヲ規定致シタ次第デアリ
マス、何卒御審議ノ上御協賛アランコトヲ
御願致シマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 本案ノ審査ヲ付託ス

ベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○服部崎市君 本案ハ政府提出、軍用電氣
通信法中改正法律案委員ニ併セ付託セラレ
ンコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第一、議員齋藤隆夫君懲罰事犯ノ件ヲ議題ト致シマス、懲罰事犯ノ議事ハ秘密會議デアリマスカラ、傍聽人ノ退場ヲ命ジマス

第一 議員齋藤隆夫君懲罰事犯ノ件

〔午後五時三十一分祕密會ニ入ル〕

〔午後六時十二分祕密會ヲ終ル〕

○議長（小山松壽者） 是ヨリ會議ヲ公開致シマス、傍聴人ヲ入場セシメマス――祕密會議ノ結果ヲ報告致シマス、祕密會議ニ於テ議員齋藤隆夫君懲罰事犯ノ件ヲ議決致シマシタ、仍テ其ノ議決ニ基キ宣告致シマス
議員齋藤隆夫君ニ對シ議院法第九十六條第一項第四號ニ依リ除名ス（拍手）

第一項第四號ニ依リ除名ス（拍手）

○服部崎市君 殘餘ノ日程ヲ延期シ、明八

日定刻ヨリ本會議ヲ開クコトトシ、本日ハ是ニテ散會セラレシコトヲ望ミマス

○議長（小山松壽君）服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、次會ノ議事日程ハ公報ヲ以テ通知致シマス、本日ハ是ニテ散會致シマス

午後六時十四分散會

四三〇	頁	段	行	誤	正
四二〇	段	行	誤	正	
結果	誤	正			
結構	正				